

厚生労働科学研究費補助金 【エイズ対策政策研究事業】
HIV 検査体制の改善と効果的な受検勧奨のための研究
(分担)研究報告書

保健所における HIV 検査・相談の現状評価と課題解決に向けての研究

研究分担者 土屋 菜歩（東北大学東北メディカル・メガバンク機構予防医学・疫学部門）
研究協力者 佐野 貴子（神奈川県衛生研究所）、今井 光信（田園調布学園大学）、
須藤 弘二、加藤真吾（株式会社ハナ・メディテック）、貞升 健志（東京都健康安全研究センター）、川畑 拓也（地方独立行政法人大阪健康安全基盤研究所）
大木 幸子（杏林大学）、生島 嗣（特定非営利活動法人ふれいす東京）
堅多 敦子（東京都立駒込病院）、関 なおみ、根岸 潤（東京都福祉保健局）、
城所 敏英（東京都南新宿検査・相談室）、カエベタ 亜矢（新宿区保健所）、
今村 顕史（東京都立駒込病院）

研究要旨

本研究は、保健所・検査所における HIV 検査の現状と課題を把握し、解決策を検討することを目的としている。今年度は、全国の保健所等を対象とした HIV および梅毒検査相談に関するアンケート調査を行った。また、当初予定していた、保健所における HIV 検査・相談の事例集作成は、COVID-19 流行拡大の影響により実施困難であり来年度以降に延期とした。COVID-19 が検査・相談に与えた影響を評価するため、アンケート調査の質問項目に COVID-19 による検査・相談実施体制の変化の有無とその詳細を問う質問を設けた。

アンケート調査は郵送で 2021 年 1 月に実施し、2020 年 1 月～12 月までの情報を得た。回収率は保健所等で 57% (305/531 施設)、特設検査相談機関（以下特設）で 74% (15/19 施設) と例年よりかなり低いものとなった。HIV 検査相談を実施した保健所 303 施設で 2020 年の 1 年間に行った HIV 検査の総数は 32,211 件、陽性は 88 件 (0.27%) であった。特設 15 施設での HIV 検査の総数は 20,752 件で、陽性は 122 件 (0.59%) であった。即日検査でも検査結果を受け取らなかった受検者がいた。ブロック別の回収率は、関東甲信越で最も低かった。HIV 検査数は近畿ブロックが最多であった。HIV 検査陽性率は九州 0.52% (19/3,668 件) が最も高く、次いで関東甲信越 0.36% (30/8,240 件)、北海道 0.23% (2/856) の順であった。保健所の 90.5%、特設の 60.0% で梅毒検査を実施していた。保健所、特設での梅毒検査での陽性率はそれぞれ 2.8%、6.3% であった。COVID-19 により検査・相談の休止、縮小などの変化があった保健所は約 7 割に上り、理由として人員不足や感染対策が十分に取れないことが挙げられた。

新たな HIV 検査・相談の課題として、民間の検査キットの普及により保健所検査の来所者が減少している可能性、PrEP の正しい情報提供の必要性などが挙げられた。COVID-19 による検査・相談の休止、検査機会や情報発信の機会の減少も明らかになった。必要な人、希望する人が検査・相談の機会を失うことのないよう、有事の際にも地域での検査が続けられるような体制の構築とそのための支援、郵送検査など保健所・特設以外の場でのプレ検査の選択肢の拡大も含めた検討を、今後も現場の声をいただきながら進めていきたい。

A.研究目的

我が国の新規発生報告件数はほぼ横ばいの状態が続いており、新規発生報告に占める AIDS 患者の割合は 30%前後で推移している。保健所

等検査施設全体における HIV 抗体検査の陽性件数はエイズ動向委員会の報告数の約 45%に相当し、HIV 陽性者同定に重要な役割を担っている。また、梅毒を含む性感染症の同時検査は、HIV

と併せたスクリーニング、予防啓発の機会となり得る。HIV 検査・相談の実施状況と課題に関するアンケート調査は継続して実施されているが、過去の調査から検査・相談の実施状況や課題の変化、地域による違いも見えてきている。地域特性やニーズに合わせた保健所検査・相談体制の構築につなげるため、本年は以下を研究目的とした。

1. 全国の保健所等を対象に HIV および梅毒検査相談の実施状況と課題を明らかにする
2. 各地の保健所・検査所における HIV 検査・相談の事例をまとめる。

B.研究方法

1. 「保健所・検査所における HIV 検査・相談体制に関するアンケート」、「保健所・検査所における梅毒検査に関するアンケート」調査

全国の保健所およびその支所等 531 箇所の HIV 検査相談施設と南新宿 HIV 検査相談施設等 19 箇所の特設 HIV 検査相談施設を対象に、2021 年 1 月 4 日に HIV 検査相談および梅毒検査に関するアンケート調査票を送付し、2021 年 1 月 22 日を締切日として返送用封筒により回収し、解析を行った。検査・相談の実施体制を中心に、陽性率、課題についての質問内容とした質問項目は、過去に実施された保健所・検査所対象のアンケート調査の質問の内容を参考にし、過去の調査結果や報告書から収集した情報に基づき、今後の対策に必要と考えられる新規の質問項目も加えて実施した。さらに今年度は COVID-19 の流行が検査・相談の実施体制に与えた影響を考慮し、COVID-19 と HIV 検査・相談に関する質問項目を設けた。ブロック別の検査数および陽性率の集計・解析も行った。

2. HIV 検査・相談に関する事例集の作成

当初の計画では、保健所における HIV 検査・相談の事例集を作成予定であった。事例集に必要な情報収集として都市と地方、規模の異なる施

設への訪問と聞き取りを計画していた。

C.研究結果

1. 「保健所・検査所における HIV 検査・相談体制に関するアンケート」、「保健所・検査所における梅毒検査に関するアンケート」調査

今回の調査では、全国の保健所等の 531 施設中 305 施設（梅毒検査のアンケートでは 304 施設）から回答を得た（回収率 57%）特設検査相談機関（以下特設）については、対象とした 19 施設中 15 施設（74%）から回答を得た。

1) 「保健所・検査所における HIV 検査・相談体制に関するアンケート」調査

①HIV 相談・検査の実施率と実施体制

回答のあった保健所等 305 施設のうち 303 施設（99%）で HIV 相談・検査を実施していた。HIV 検査の実施体制については、通常検査のみが 84 施設（27.7%）、即日検査のみが 158 施設（52.1%）、通常検査と迅速検査どちらも実施が 61 施設（20.1%）であった。平日夜間、土日に検査を行っている施設はそれぞれ 78 施設（25.7%）、12 施設（4.0%）であった。特設においては、通常検査のみが 4 施設（26.7%）、即日検査のみが 10 施設（66.7%）、通常検査と即日検査どちらも実施が 1 施設（6.7%）であった。平日夜間、土日に検査を行っている施設はそれぞれ 3 施設（20.0%）、12 施設（80.0%）と土日に検査を行っている施設が大部分であった。

即日検査は保健所、特設とも予約制で実施している施設がほとんどであり、通常検査でも半数以上の施設が予約制で実施していた。保健所特設とも、スクリーニング検査が陽性だった場合、確認検査は他施設に依頼するとした施設が即日検査でも通常検査でも 80%を超えていた。

②HIV 検査以外の性感染症検査について

HIV 検査以外の性感染症検査を同時に行っていると回答した保健所等施設は、303 施設中 289 施設（95.4%）であった。同時に行っている検査で最も多かったのは梅毒検査（275 施設、

95.2%)であり、B型肝炎(197施設、68.2%) C型肝炎(193施設、66.8%)が次いで多かった。特設においては15施設中9施設(60.0%)で他の性感染症検査を行っており、梅毒検査は9施設全部で行っていた。次いで、B型肝炎の検査実施施設が3施設(33.3%)であった。

③HIV検査数と陽性件数

303保健所で2020年に行ったHIV検査の総数は32,211件で、陽性は88件(0.27%)であった。陽性者のあった保健所は49施設(16.2%)であった。四半期ごとの検査件数では、1-3月の検査数が最も多く、4-6月の検査件数が最も少なかった。確認検査陽性の件数は、時期による明らかな差は認められなかった。一方、回答のあった特設15施設で2020年に行ったHIV検査の総数は20,752件で、陽性者のあった特設は10施設(67.7%)、陽性は122件(0.59%)であった。四半期ごとの検査件数でみると、1-3月、7-9月が多く、確認検査陽性数も同じ傾向であった。ブロック別の集計では、HIV検査数は近畿ブロックで10,726件と多く、陽性件数は関東甲信越ブロックで30件(検査数8,240件)と最多であった。保健所でのHIV検査陽性率をブロック別に比較すると、九州0.52%(19/3,668件)が最も高く、次いで関東甲信越0.36%(30/8,240件)、北海道0.23%(2/856)の順であった。

④年間検査件数別保健所数およびその陽性率

保健所においては、年間検査数が50件未満の施設が全体の55.6%(168施設)を占めた。そこでの陽性率は0.13%(4/3,030件)と全体の陽性率0.27%に比べて低かった。陽性率が最も高かったのは年間検査数100-199件の施設で0.34%(19/5,531件)であった。一方、特設15施設においては、陽性例は年間検査数100件以上の施設でのみ出ており、陽性率が高かったのは年間検査数100-199件の施設で、2.52%(3/119)であった。

⑤HIV検査結果の受け取り状況と誤通知

検査結果を受け取りに来なかった受験者数は、保健所での全検査数32,211件中1,158件(3.6%)であった。検査結果別に見ると、陰性の場合3.6%(1,157/32,128件)、陽性の場合1.2%(1/83件)が結果を受け取っていないかった。即日検査と通常検査を比較すると、陰性の場合即日検査のみの保健所で結果を受け取りに来ない者の割合が高かった(通常検査のみ3.1%に対し4.6%)が、陽性の場合も同じ傾向であった(即日検査のみ2.9%に対し他は0%)。

一方、特設においては、検査結果を受け取りに来なかった受験者数は、全検査数20,752件中303件(1.5%)であり、陰性の場合1.4%(297/20,630件)、陽性の場合4.9%(6/122件)が結果を受け取っていないかった。即日検査と通常検査での比較では、結果を受け取りに来ない者の割合は陰性の場合通常検査のみの施設で高く(2.1%)、陽性の場合迅速検査のみの施設で高かった(10%)。検査結果を受け取っていない者について保健所と特設で異なる傾向が明らかになった。結果の誤通知があったと答えた保健所・特設は1か所もなかった。

⑥陽性者の発生届および医療機関受診の把握

陽性者のうち、その施設で発生届出を行った割合は、保健所で53.4%、特設で74.6%と特設で高かった。発生届を提出する際にCD4数の記載はしていない施設が半数以上であった。医療機関への紹介状を発行した陽性者の割合は、保健所で94.3%、特設で86.9%であった。医療機関を受診したかどうか把握できる仕組みがあると回答した保健所は51.2%(155/303)、特設は86.7%(13/15)であり、把握の方法は紹介状の返信や医療機関からの報告がほとんどであった。医療機関を受診したかどうか把握できている陽性者の割合は保健所で86.2%(88名中75名)、施設で79.3%(122名中92名)であった

検査・相談に来所する際に他所のスクリーニング検査結果や郵送検査の結果を持参した来所者がいたと答えた保健所は2施設(0.7%)、特設

は1施設(6.7%)であった。

⑦HIV検査結果に関する証明書の発行

保健所において、証明書を発行している施設は37.6%(114/303)であり、そのうち53.5%(61/114)が有料で証明書を発行していた。発行にかかる料金は500円～1,000円未満が最も多かった(30%)。記名のある証明書を発行している施設は63.2%(72/114)であった。特設では、証明書を発行している施設は1か所のみで、無料で発行されていた。

⑧受検者について把握している内容

保健所において、性別については99.3%、受検動機については88%、感染機会の時期については78.9%の施設で把握されていた。受検経験、感染リスク、年齢について把握している施設はそれぞれ74.9%、69.6%、73.3%であった。

64.7%の保健所で検査についての情報源を把握していた。居住地域や性的指向については、約40%程度の保健所で把握されていた。特設において性別は100%、受検経験、感染リスクは93.3%で把握されており、受検経験、性的指向は85%以上で把握されていた。情報源は80%、年齢、受検動機は70%以上で把握されていた。受検者の情報を把握するための質問票は保健所の95.9%、特設では93.3%で利用されていた。

⑨結果説明について

保健所において、スクリーニング検査陽性の場合75.9%、確認検査陽性の場合95.4%で医師が検査結果説明担当者となっていた。陰性の場合には保健師が結果説明を行うという回答が多かった。特設においては、陰性例でも90%以上で医師が検査結果説明担当者(複数回答のため保健師、看護師が同席している場合もあり得る)となっていた。

スクリーニング検査で陰性時に検査結果の説明は口頭のみで行うと回答した保健所は303施設中142施設(56.8%)、特設では15施設中5施設(33.3%)であった。陽性者への対応として専門のカウンセラーの派遣の経験ありと回答し

た保健所等施設は303施設中3件(12.9%)、経験はないが可能と回答したのは85件(28.9%)であった。特設においては、15施設中6件(40.0%)で派遣経験あり、2件(13.3%)で経験はないが派遣可能と言う回答であった。

⑩血液曝露事故が受検動機の受検者について

血液曝露事故が受検動機の受検者がいたと回答した施設は、保健所等で70件(23.1%)、特設検査相談施設で3件(20.0%)であった。そのうちわけは、保健所、特設検査相談施設ともに医療職が最も多く、保健所では福祉職、清掃業、警察官・自衛官の受検者も見られた。保健所では血液曝露事故が受検動機であった者の15%が職業不明であった。

⑪中学生、高校生の検査希望者への対応

保健所では63.4%、特設では73.3%の施設が中学生、高校生の検査希望者に通常通りの対応を行うと回答した。保護者同伴の条件付きで受け入れる、陽性時のみ保護者同伴で説明・相談、告知のみ保護者同伴、保護者の同意が確認できた場合のみ受け入れ、など施設によって受け入れや対応が異なっていた。

⑫日本語のわからない外国籍の人の受検

日本語のわからない外国籍の人が受検できる仕組みがあるとした施設の割合は保健所等で40.3%(122/303)、特設40%(6/15)であった

対応言語は英語が最も多く、保健所でも施設でも次に中国語が続いた。他は、ポルトガル、タイ語、スペイン語、タガログ語、ベトナム語、韓国語に対応可能との回答もあった。対応方法としては保健所では「通訳システム、アプリ」が最も多く使用されていた(36.9%、45/122)。特設では、医師による対応と、通訳依頼(リモート含む)が6施設中2施設ずつあり、通訳システムやアプリを使用している施設は1施設であった。

⑬やむを得ず検査・相談を断った経験

2020年1-12月の間に、やむを得ず検査・相談の受入れを断った経験の有無および断った理

由（複数回答あり）を尋ねた。保健所では56.4%（171/303）が「ある」と回答し、理由としては「定員数の超過」が58.5%（100/171）、「COVID-19の影響のため」が59.1%

（101/171）が突出して多かった。「繰り返し受験のため」と回答した保健所が3施設（1.8%）あった。特設では、73.3%（11/15）が「ある」と回答し、理由として最も多かったのは「定員数を超過した」（63.4%）、次いで「COVID-19の影響で」「受付時間に大幅に遅れた」であった保健所、特設のどちらにおいても、「発熱症状があった」ことを理由に受入れを断っていた例があった（保健所2件、施設2件）。

⑭ホームページ「HIV検査・相談マップ」の利用について

保健所でホームページ「HIV検査・相談マップ」を閲覧したことがあると回答した施設の割合は86.8%（263/303）であり、うち65%が役に立つと回答した。特設では、すべての施設がホームページ「HIV検査・相談マップ」を閲覧したことがあり、かつ役に立つと回答していた

⑮課題

自由記載でHIV検査相談の課題について尋ねた。複数の施設から挙げられた課題として、複数回（定期）受検者への予防行動の動機付け支援、MSM等ハイリスク層への周知方法、日本語を話せない外国籍者への対応、結果を受け取りに来ない受検者への対応があった。郵送検査キットの普及により保健所検査の来所者が減少している可能性、PrEPに関する相談が増加しているが受検者のPrEPへの誤った知識が多くみられるため、PrEPの正しい情報をまとめて見られる資料や公式サイトが必要などの指摘もあった

2)「保健所・検査所におけるHIV検査・相談体制に関するアンケート」調査—COVID-19がHIV検査・相談体制に与えた影響について—

①COVID-19流行による検査・相談の実施体制の変化

保健所の69.6%（211/303）が「COVID-19流行による検査・相談の実施体制の変化があった」と回答した。変化の内容（複数回答可）として多かったのは「回数を減らして実施」「一時（検査・相談を）休止したが再開」で両方とも35.1%（74/211）であった。「受け入れ人数を減らして実施」が26.1%（55/211）、まだ休止中の施設も60施設（28.4%）あった。実施体制変更の理由としては「人員の不足」が7割を占め、次に多かったのは「密を避けることが難しい」（27.5%）であった。変更の判断は「保健所等の判断」が86.7%（183/211）を占めた。

特設では86.3%（13/15）の施設が「変化があった」と回答し、その内容としては「受け入れ人数を減らして実施」（61.5%、8/13）「一時休止したが再開」（69.2%、9/13）が多かった。実施体制変更の理由で最も多かったのは「密を避けることが難しい」（53.8%、7/13）であった。変更の判断は「本庁（委託元）の判断」が46.2%（6/13）を占めた。

②HIV検査・相談受検者の属性の変化

「2020年1～12月において、HIV検査受検者の属性（セクシュアリティ、年齢、リピーターなど）は変化したと感ずる」と回答した保健所は303施設中12施設（4%）、特設では15施設中7施設（46.7%）と異なる結果であった。変化の内容として、「MSMの割合が増加した」「初回受検者が減り、リピーターの割合が増えた」等が挙げられた。

③来年のHIV検査・相談の実施予定

来年のHIV検査・相談の実施予定を尋ねたところ、保健所では「従来通りに実施する」が最も多く（46.9%、142/303）、「流行の状況により検討」（17.5%）、「未定」（14.5%）、「受け入れ人数を減らして実施予定」（12.5%）が続いていた。特設では、「従来通りに実施する」が46.7%（7/15）、「流行の状況により検討」（20%）、「完全予約制で実施」（20%）が次に多かった。

④COVID-19 流行下における今後の HIV 検査・相談の課題

多種多様な課題が挙げられた。COVID-19 対策業務増加による人員不足、検査・相談時の感染対策物品不足、密の回避に十分なスペースの不足など資源の不足に関するものが多かった。その他、HIV 検査・相談が匿名であるため COVID-19 感染や濃厚接触が疑われた場合の追跡ができない、予約に対応できる枠が確保できず検査機会の減少を招いてしまっていることへの懸念、減少した検査・相談の機会を補う選択肢（郵送検査など）の提供の必要性、スタッフの研修が COVID-19 の影響で開催できずに苦労している、などが挙げられた。

3) 「保健所・検査所における梅毒検査に関するアンケート」調査

①梅毒検査実施率

アンケートを回収できた保健所 304 施設のうち 275 施設 (90.5%) が梅毒検査を実施していると回答した。特設では、回収できた 15 施設中 9 施設 (60.0%) が梅毒検査を実施していた。

②梅毒検査の実施形態

HIV 検査と一緒にのみ梅毒検査が受けられる施設と、梅毒検査のみ受けられる施設が混在していた。保健所においては、176 施設 (64.0%) が梅毒検査単独でも受けられると回答した。特設では梅毒検査単独で受けられる施設は 1 か所のみであった。梅毒検査を実施している施設すべてにおいて、梅毒検査は無料だったが、保健所等においては無料の施設の割合が 88.0% (242/275) であり、有料の場合に受検者が負担する金額は 500~1000 円が 63.3%、500 円未満または 1000~2000 円が 16.7%と施設により異なっていた。保健所等では通常検査のみでの梅毒検査が 67.6% (186 施設) であった。HIV 通常検査の場で梅毒検査を実施した場合の梅毒検査結果の返却時期は 1 週間後が最も多く (52.2%)、HIV 即日検査の場で梅毒検査を実施

した場合には 2 週間後の結果返却が最も多かった (66.7%)。特設では通常検査のみでの実施が 44.4%、即日検査での実施が 33.3%であり、結果返却は通常検査の場で梅毒検査をした場合で 60%が 1 週間であった。

③梅毒検査の方法

梅毒検査を即日検査で実施している保健所では、STS 法と TP 抗体検査を同時に実施している施設が最も多く (44/89 施設、49.4%)、次いで TP 抗体検査のみ実施が 23 施設 (25.8%) であった。STS 法のみ実施、STS 法で陽性だった場合 TP 抗体検査を追加実施、という保健所もあった。通常検査を実施している保健所では、STS 法と TP 抗体検査を同時に実施している施設の割合が 81.1% (163/201) であった。特設では、梅毒検査を通常検査で実施している施設では STS 法と TP 抗体検査を同時に実施している施設が 3 施設 (60%)、TP 抗体陽性だった場合に STS 法を追加、または STS 法と TP 抗体法の両方を追加で実施すると回答した施設も見られた。

④梅毒検査陽性者数

2020 年 1 月~12 月の梅毒検査数、陽性者数を尋ねた。梅毒検査を実施している保健所 275 施設のうち、検査数と陽性者数を回答した施設は 265 施設であった。全体の梅毒検査数 26,902 件のうち、梅毒陽性は 762 件 (2.8%) であった。陽性例を検査方法別に見ると、STS 法での陽性は 312 件 (1.6%)、TP 抗体法での陽性は 775 件 (3.2%) であった。

特設においては、全体の梅毒検査数 18,629 件のうち、梅毒陽性は 1,176 件 (6.3%) であった。陽性例を検査方法別に見ると、STS 法での陽性は 433 件 (9.6%)、TP 抗体法での陽性は 1,117 件 (13.9%) であった。

⑤陽性者への対応

梅毒陽性となった受検者への対応としては、保健所、特設どちらも受診干涉が約 90%と最も多く、次にパートナーの受検勧奨、紹介状の発行が多かった。梅毒検査結果の証明書の発行を

していると回答した施設は、保健所で 28.4% (78/275) であり、うち約 53%が有料であった。証明書発行にかかる料金は、1000 円～2000 円未満が最も多かった。証明書は記名式であると答えた施設が 61.5%を占めた。特設では、梅毒検査結果の証明書を発行している施設は 11.1% (1/9) であり、無料かつ記名なしであった。

⑥課題

自由記載で梅毒検査の課題を尋ねた。課題として、陽性の受検者の受診確認ができないこと、既往歴がある受検者への対応、陽性が判明したのにもかかわらず COVID-19 感染が不安で医療機関を受診しつづける受検者がいる等が挙げられた。検査結果の解釈に関するわかりやすい資料の希望、オリンピックを機会に感染者が増加する可能性があるため国を挙げて対策に取り組んでほしいとの希望もあった。

2. HIV 検査・相談に関する事例集の作成

COVID-19 流行拡大により、保健所や自治体の感染症対策担当者の負担が増大したこと、自治体をまたいで移動が制限されたこと等から、当初予定していた事例集作成のための現地調査は困難と判断した。よって、今年度は事例集の作成を見送ることとした。

D.E 考察とまとめ

全国の保健所（保健所およびその支所等）、特設検査相談施設を対象としたアンケート調査は例年同時期に実施してきたが、今年度は COVID-19 流行下での実施となった。年度当初予定していた HIV 検査・相談の事例集作成は、COVID-19 による保健所や自治体業務の増大、移動を伴う現地調査が難しいと判断し、今年度は見送りとした。COVID-19 が保健所、特設における HIV 検査・相談に及ぼした影響を評価するため、アンケート調査には COVID-19 による検査・相談体制の変化、受検者特性の変化、COVID-19 流行下で検査・相談を実施する際の

課題に関する質問項目を新たに追加し情報を収集した。

アンケート調査の回収率は、COVID-19 対策に多忙な保健所、自治体の状況を反映してか、特に保健所で例年よりも相当低いものとなった。保健所は 531 施設中 305 施設（回収率 57.4%、昨年度 87%）、特設は 19 施設中 15 施設（回収率 78.9%、昨年 83%）であった。

検査・相談を実施した保健所 303 施設で 2020 年の 1 年間に行った HIV 検査の総数は 32,211 件、陽性は 88 件 (0.27%) であった。陽性者のあった保健所は 49 施設 (16.2%) であった。四半期で見ると 1-3 月の検査数が最も多く、4-6 月が最も少なかった。一方、回答のあった特設 15 施設で 2020 年に行った HIV 検査の総数は 20,752 件で、陽性者のあった特設は 10 施設 (67.7%)、陽性は 122 件 (0.59%) であった。検査数が多かったのは 1-3 月と 7-9 月の期間であった。アンケートの回収率が低いことから、検査件数を実数値の合計でのみ昨年までと比較することは困難である。しかし、エイズ動向委員会から報告されている HIV 感染者、保健所検査受検者数も前年までと比較して減少していることが明らかであり、本アンケートでもその結果が反映されていると言える。特設の検査件数に保健所ほど大きな減少を認めなかったこと、7-9 月に検査件数が多かったことは、COVID-19 の影響で休止している保健所の受検者を受け入れていた可能性も示唆される。

ブロック別の集計は、今年度のアンケートの回収率に地域差があったことを踏まえて解釈することが必要である。ブロック別の回収率は、関東甲信越ブロックで最も低く (40.5%)、東北 (70.4%)、北海道 (80.0%) が高かった。アンケートの配布・回収時期に COVID-19 の感染拡大が起きていた地域からの回収率は、低い傾向であった。ブロック別の集計では、HIV 検査数は近畿ブロックで 10,726 件と多く、陽性件数は関東甲信越ブロックで 30 件 (検査数 8,240 件)

と最多であった。保健所での HIV 検査陽性率をブロック別に比較すると、九州 0.52%

(19/3,668 件) が最も高く、次いで関東甲信越 0.36% (30/8,240 件)、北海道 0.23% (2/856) の順であった。九州ブロックのアンケート回収率は 54.2% と低い方であったが、検査陽性率の高さはこの数年同様の傾向にある。

検査結果を受け取っていない受検者の割合が上昇していることが懸念される。陽性で検査を受け取っていない者は保健所で 1 名 (1.2%)、特設で 6 名 (4.9%)。陰性、陽性問わず即日検査の受検者でも結果を受け取っていない者がいた。この中には、すでに HIV 感染が分かっている治療中の受検者が含まれる可能性はあるものの、結果を受け取りに来ない (来られない) 理由や背景を明らかにし、検査→診断→医療機関受診のカスケードから感染者が脱落しないような体制づくりが必要である。他所でのスクリーニング検査や郵送検査の結果を基に、保健所・特設へ来所した受検者はほとんどいなかったが、今後増えていく可能性は高いと考える検査結果の受け取りを含め、受検者がアクセスしやすい検査の選択肢が拡がるのが重要である。

受検者の特性について質問票で把握している内容は、施設によって異なっていた。今年の実施検査・相談では、発熱や COVID-19 が疑われる症状の有無の確認をしていると回答した施設も多かった。従来の検査・相談時に把握する情報に加えて確認する事項が増え、1 人 1 人の受検者にかかる時間や検査・相談担当者の負担が増している可能性も考えられる。質問票により経時的に受検者の特性の変化が把握できるという利点もある。特性の変化がみられるようであれば、質問項目の見直しや相談で重視する内容の再検討も必要になるだろう。

日本語を話さない外国人への対応については、書面による対応を通訳システム・翻訳アプリが上回っていた。COVID-19 流行下で遠隔での通訳利用、支援が導入される場面も増えてお

り、HIV 検査・相談においても遠隔通訳支援のニーズが増える可能性がある。翻訳アプリは医療以外で導入する自治体が増加しており、担当者間での情報共有も有効であろう。平時から効果的な利用方法を確認・検討しておくことで、実際使用する際のトラブル等を未然に防ぐことができると思う。

「やむを得ず検査・相談の受け入れを断った経験」については、保健所では 56.4% (171/303) が「ある」と回答し、理由としては「定員数の超過」が 58.5% (100/171)、「COVID-19 の影響のため」が 59.1% (101/171) が突出して多かった。保健所と比較すると影響が少なかったであろう特設においても、73.3% (11/15) が「断った経験がある」と回答し、COVID-19 の影響や発熱症状が理由として挙げられていた。COVID-19 の流行が検査・相談の受け入れに大きく影響を与えたことが明らかになった。「繰り返しの受検」で検査・相談を断った例もあった。定期的に検査が必要なハイリスク層の検査機会を奪ってしまうことが無いよう、引き続き研修会や学会等での周知をより広く行っていきたい。

HIV 検査・相談の課題として、複数回 (定期) 受検者への予防行動の動機付け支援、MSM 等ハイリスク層への周知方法、日本語を話さない外国籍者への対応、結果を受け取りに来ない受検者への対応があった。また、民間の検査キットの普及により保健所検査の来所者が減少している可能性、PrEP の正しい情報をまとめて見られる資料や公式サイトが必要などの指摘もあった。PrEP については即日検査ガイドラインにも記載があるが、検査・相談を提供する側が正しい知識を持って説明できるような情報提供を継続していきたい。

COVID-19 が HIV 検査・相談に与えた影響については、保健所の 69.6% (211/303)、特設では 86.3% (13/15) が「検査・相談の実施体制の変化があった」と回答した。変化の内容 (複数回答可) としては「回数を減らして実施」「一時

(検査・相談を) 休止したが再開」が多く、まだ休止中の施設も 60 施設 (28.4%) あった。実施体制変更の理由として、保健所は「人員の不足」が圧倒的に多く、特設では「密を避けることが難しい」が半数を占めた。

COVID-19 流行下での検査・相談体制に関する課題としては、COVID-19 対策業務増加による人員や感染対策物品、密の回避に十分なスペースの不足など資源の不足に関するものが多かった。匿名検査であるが故の課題 (COVID-19 感染や濃厚接触が疑われた場合の追跡ができない) も明らかになった。検査機会の減少に関する懸念が挙げられており、減少した検査・相談の機会を補う選択肢 (郵送検査など) が広がり、従来の来所型の保健所検査と連携できるような体制構築が喫緊の課題である。

2020 年 1 月～12 月の梅毒検査陽性率は、保健所で 2.8%、特設で 6.3%であり、回収率の影響を加味してもまだ流行が収束していないことを示している。梅毒検査の課題として、昨年までも挙げられていた、陽性の受検者の受診確認ができないこと、既往歴がある受検者への対応の他、陽性が判明したのにもかかわらず COVID-19 感染が不安で医療機関を受診したがる受検者がいる等が挙げられた。

例年に比較し回収率が低かったことから、今年度のアンケート調査の結果の解釈には注意が必要である。代表性の点では限界があるものの、COVID-19 流行による保健所検査・相談の休止、検査機会の減少は明らかである。2021 年 3 月現在、COVID-19 の第 3 波、第 4 波が懸念されており、まだ COVID-19 の収束は見えていない。引き続き、検査・相談の実施状況やその変化を注意深く見ていく必要がある。COVID-19 の流行下においても必要な人、希望する人が検査・相談の機会を失うことのないよう、一部でも地域での検査が続けられるような体制の構築と支援、郵送検査など保健所・特設以外の場で

のプレ検査の選択肢の拡大も含めた検討を現場の声をいただきながら進めていきたい。

E.健康危険情報

該当なし

G.研究発表

1.論文発表

なし

2.学会発表

- 1) 土屋菜歩、佐野貴子、カエベタ亜矢、関なおみ、城所敏英、根岸潤、堅多敦子、川畑拓也、貞柘健志、須藤弘二、加藤真吾、大木幸子、生島嗣、今井光信、今村顕史：保健所・検査所における梅毒検査実施状況および陽性率に関するアンケート調査. 第 35 回日本エイズ学会学術集会・総会、2020 年 11 月 (口演)
- 2) 土屋菜歩、佐野貴子、カエベタ亜矢、関なおみ、城所敏英、根岸潤、堅多敦子、川畑拓也、貞柘健志、須藤弘二、加藤真吾、大木幸子、生島嗣、今井光信、今村顕史：保健所・検査所における HIV 検査・相談体制と実施状況および課題に関するアンケート調査. 第 35 回日本エイズ学会学術集会・総会、2020 年 11 月 (口演)
- 3) 土屋菜歩：COVID-19 流行下で見えてきたこと - 不確かさ、不安と向き合う. 第 35 回日本エイズ学会学術集会・総会、2020 年 11 月 (シンポジウム)

H.知的所有権の出願・登録状況 (予定を含む)

なし

謝辞

新型コロナ感染症対応で多忙を極める中、アンケート調査にご協力いただいた全国の保健所・検査所等関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

令和3年1月4日

各保健所長様

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業
HIV検査体制の改善と効果的な受検勧奨のための研究
研究代表者 今村 顕史 (東京都立駒込病院)
研究分担者 土屋 菜歩 (東北大学)

HIV検査と梅毒検査に関するアンケートのお願い (依頼)

厚生労働省の研究事業につきましては、日ごろ格別のご協力を頂き厚くお礼申し上げます。

昨年度実施しました、「保健所における HIV 検査および梅毒検査体制に関する全国調査」の際には、大変お忙しい中にも関わらず、ご協力を頂き誠にありがとうございました。アンケート調査結果につきましては、全国保健所長会のサイトに掲載させて頂きましたのでご一読頂ければ幸いです。

年度末で大変お忙しいところ恐縮ですが、本調査へのご協力をお願い申し上げます。

別紙のアンケート用紙にご回答頂きましたら、**令和3年1月23日(金)**までに、返信用封筒にてご返信下さいますようお願い致します。一つの保健所で複数の HIV 検査相談施設(保健所支所、保健センター等)を管轄している場合には大変申し訳ありませんが、アンケート用紙をコピーの上、各施設単位でアンケートのご回答をしていただけますようお願い申し上げます。

記

- 1 調査目的 保健所における HIV 検査と梅毒検査 (HIV 検査と同時にを行う他の性感染症検査を含む) 検査・相談体制に関する現状を調査する。
- 2 調査票回答者 保健所長 あるいは HIV 検査相談事業担当者
- 3 調査票回答期限 令和3年1月23日(金)

4 調査票回答方法

返信用封筒による郵送

宛先 〒185-0014 東京都国分寺東恋ヶ窪 3-19-13 セイバー株式会社

(用紙でのご回答・ご返送が難しい場合には、下記問い合わせ先までご連絡下さい)

*検査・相談業務にお役立ていただける情報を以下に掲載しております。ぜひご活用下さい。

- 保健所における HIV 即日検査のガイドライン第4版
<https://www.hivkensa.com/tantousha/>
- HIV 検査相談に関する全国保健所アンケート調査報告書
<https://www.hivkensa.com/report/index.html>
- 梅毒検査結果説明用資料
<https://www.hivkensa.com/tantousha/>

(本調査に関する問い合わせ先)

下記メールにより土屋菜歩宛にお願い致します。

Email: kensahan@m10.alpha-net.ne.jp

令和3年1月4日

関係者の皆様

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業
HIV 検査体制の改善と効果的な受験勸奨のための研究
研究代表者 今村 颯史 (東京都立駒込病院)
研究分担者 土屋 菜歩 (東北大学)

HIV 検査と梅毒検査に関するアンケートのお願い (依頼)

厚生労働省の研究事業につきましては、日ごろ格別のご協力を頂き厚くお礼申し上げます。
昨年ご協力をいただきました「保健所における HIV 検査および梅毒検査体制に関する全国調査」を、今年度も引き続き実施することとなりました。

つきましては、保健所以外の自治体特設の HIV 検査相談施設に関しましても、保健所アンケートに準じた調査を本年度も実施させていただきたく、大変お忙しいところ恐縮ではありますが、本調査へのご協力をお願い申し上げます。

別紙のアンケート用紙にご回答頂けましたら、**令和3年1月23日(金)**までに、返信用封筒にてご返信下さいますようお願い致します。

記

- 1 調査目的 自治体特設 HIV 検査相談施設における HIV 検査と梅毒検査 (HIV 検査と同時に他の性感染症検査を含む) 体制および結果通知に関する現状を調査する。
- 2 調査票回答者 自治体特設 HIV 検査相談施設の責任者 あるいは委託元 HIV 検査相談事業の責任者または担当者
- 3 調査票回答期限 令和3年1月23日(金)
- 4 調査票回答方法
返信用封筒による郵送
宛先 〒185-0014 東京都国分寺東恋ヶ窪 3-19-13 セイバー株式会社

* 検査・相談業務にお役立ていただける情報を以下に掲載しております。ぜひご活用下さい。

- 保健所における HIV 即日検査のガイドライン第4版
<https://www.hivkensa.com/tantousha/>
- HIV 検査相談に関する全国保健所アンケート調査報告書
<https://www.hivkensa.com/report/index.html>
- 梅毒検査結果説明用資料
<https://www.hivkensa.com/tantousha/>

(本調査に関する問い合わせ先)

下記メールにより土屋菜歩宛にお問い合わせ致します。

Email: kensahan@m10.alpha-net.ne.jp

保健所における HIV 検査体制に関する調査

* アンケートの集計結果は毎年、研究班の報告書としてまとめ報告するとともに、学会・学会誌等に発表します。原則として発表データは集計結果のみを使用し、個別の施設が分かる形では、特別に許可を得た場合を除き公表することはありません。

保健所名:

連絡担当者名: 職種: 医師・保健師・事務・その他()

連絡先: TEL FAX E-mail

下記の質問について、選択項目については該当するものを○で囲み、その他の場合はご記載下さい。

- 貴保健所では HIV 検査・相談を行っていますか? ()はい ()いいえ
→「いいえ」と回答された保健所はここで質問終了です。ご協力ありがとうございました。
- HIV 検査実績について(2020 年 1~12 月の実施状況をお教え下さい。)
 - HIV 検査件数

1~3 月:検査数	件	うち、確認検査実施数	件	確認検査陽性数	件
4~6 月:検査数	件	うち、確認検査実施数	件	確認検査陽性数	件
7~9 月:検査数	件	うち、確認検査実施数	件	確認検査陽性数	件
10~12 月:検査数	件	うち、確認検査実施数	件	確認検査陽性数	件
 - 年間で HIV 検査の結果を聞きにこなかった受検者数: _____ 件 うち、陽性者: _____ 件
 - 年間の陽性者のうち、貴保健所で発生届出を行った数: _____ 件
 - 年間の陽性者のうち、医療機関への紹介状を発行した数: _____ 件
 - 年間の陽性者のうち、医療機関を受診したことを把握できている数: _____ 件
- COVID-19 が HIV 検査・相談体制に与えた影響について
 - 貴保健所では、COVID-19 流行により検査・相談の実施体制は変化しましたか?
()変化なし
()変化あり → 回数を減らして実施 ・ 受け入れ人数を減らして実施 ・ 休止中 ・ 一時休止したが再開した
→ 「変化あり」の理由を教えてください。
(人員の不足 ・ 会場が使用不可 ・ 3密を避けることが難しい ・ その他())
→ 「変化あり」の場合、その判断はどこでされたものですか。
(保健所等の判断 ・ 本庁の判断 ・ その他())
 - 2020 年 1~12 月において、HIV 検査受検者の属性(セクシュアリティ、年齢、リピーターなど)は変化したと感じますか?
(変わらない ・ 変わった(具体的に:))
 - 来年の HIV 検査・相談の実施予定について教えてください。
(従来通りに実施 ・ イベント時のみ等回数を減らして実施 ・ 受け入れ人数を減らして実施 ・ その他())
- HIV 検査・相談事業について
 - HIV 検査の際に性感染症検査を一緒に行っていますか?
()行っていない
()行っている → 毎回 ・ 毎回ではないが定期的 ・ イベント時のみ(年 回)
→ 一緒に実施している性感染症検査項目に○をつけてください。
(梅毒・クラミジア(抗原または抗体)・淋菌・B型肝炎・C型肝炎・その他())

- ② 2020年1月以降、HIV/性感染症検査結果に関して誤った結果を通知したことはありましたか？
 なかった
 あった → 何の結果ですか(HIV ・ 性感染症)
- ③ HIV検査陰性の証明書を発行していますか？
 発行していない
 発行している → 有料ですか はい(円) ・ いいえ
 → 記名式ですか はい ・ いいえ
- ④ HIV検査の陽性者が医療機関を受診したかどうか分かる仕組みがありますか？
 ない
 ある → 把握方法を具体的に教えて下さい:

5. 受検者に関する情報収集・対応状況等について

- ① 受検者について把握している内容に○を付けて下さい(複数回答可)。
 性別 ・ 年齢 ・ 年代 ・ 居住地域 ・ 受検の動機 ・ 受検経験 ・ 感染リスク
 性的指向 ・ 感染機会の時期 ・ 今回の検査の情報源 ・ その他()
- ② 受検者の情報を把握するための質問票などを用いていますか？
 用いていない ・ 検査前に用いている ・ 検査後に用いている)
- ③ 職務中の血液暴露事故が受検動機の受検者はいましたか？
 わからない、または把握していない ・ いない ・ いる → 受検者数(医療職: 名
 ・ 福祉職: 名 ・ 美容職: 名 ・ 清掃業: 名 ・ その他(): 名)
- ④ 中学生・高校生の検査希望者への対応はどのようにしていますか？
 通常通り行う ・ 受け付けない ・ 検査、告知とも保護者同伴の条件で受け付ける
 告知のみ保護者同伴の条件で受け付ける ・ その他 → (具体的に:)
- ⑤ 日本語のわからない外国籍の人が受検できる仕組みがありますか？
 ない ・ ある : 対応言語と方法を具体的に()
- ⑥ 他所でのスクリーニング検査結果、郵送検査の結果を持参した受検者はいましたか？
 いなかった ・ いた)

6. HIV検査の実施状況について教えて下さい(通常・即日共に実施している場合は両方の質問にご回答ください)。「②曜日と時間」で検査を複数回実施されている場合には余白にご記入ください。

()通常検査を行っている

- ① 実施方法 (定期的 ・ イベント時)
- ② 曜日と時間 _____ 曜日/(月・年) _____ 回 受付時間: 午前 ・ 午後 ・ 夜間
- ③ 予約の要否 (必要 ・ 必要なし)
- ④ 結果返却のタイミング (6日以内 ・ 1週間後 ・ 2週間後 ・ 日後以降)
- ⑤ スクリーニング検査の実施施設 (自施設 ・ 他施設())
- ⑥ スクリーニング検査で HIV 陽性だった場合の確認検査の方法
 WB法のみ ・ 2次スクリーニング検査+WB法 ・ WB法+核酸増幅検査(NAT)法
 2次スクリーニング検査+WB法+NAT法 ・ その他()
- ⑦ 確認検査の実施施設 (自施設 ・ 他施設())

()即日検査を行っている

(スクリーニング検査で陰性であった場合、検査を受けたその日のうちにお知らせする検査を指します)

- ① 実施方法 (定期的 ・ イベント時)
- ② 曜日と時間 _____ 曜日/(月・年) _____ 回 受付時間: 午前 ・ 午後 ・ 夜間
- ③ 予約の要否 (必要 ・ 必要なし)
- ④ 確認検査の結果返却のタイミング (6日以内 ・ 1週間後 ・ 2週間後 ・ 日後以降)
- ⑤ スクリーニング検査の方法: (仏ノクロマト法 (ダイナスクリーン ・ エスプライン) ・ その他() ・ 不明)

- ⑥ スクリーニング検査の実施職員（自施設職員 ・ 他施設職員 ・ その他（ ））
- ⑦ スクリーニング検査で HIV 陽性だった場合の確認検査の方法
（ WB 法のみ ・ 2 次スクリーニング検査+WB 法 ・ WB 法+核酸増幅検査(NAT)法
2 次スクリーニング検査+WB 法+NAT 法 ・ その他（ ））
- ⑧ 確認検査の実施施設（自施設 ・ 他施設（ ））
- ⑨ 確認検査用の検体
（迅速検査の残血液 ・ 確認検査用に採血 →（迅速検査用と同時 ・ 結果通知後 ））

7. 結果説明・相談体制について

(1) スクリーニング検査陰性者への対応

- ① 説明をしている者の職種（医師 ・ 保健師 ・ 看護師 ・ 検査技師 ・ その他（ ））
- ② 説明資料の有無（ある ・ ない）
- ③ 配布資料の有無（ある ・ ない）
- ④ 説明方法（口頭のみ ・ 結果の書面を渡す ・ その他（ ））

(2) 陽性者への対応

スクリーニング検査で陽性の場合

- ① 説明をしている者の職種（医師 ・ 保健師 ・ 看護師 ・ 検査技師 ・ その他（ ））
- ② 説明資料の有無（ある ・ ない）
- ③ 配布資料の有無（ある ・ ない）
- ④ 説明方法（口頭のみ ・ 結果の書面を渡す ・ その他（ ））

スクリーニング検査後、確認検査で陰性（偽陽性）となった場合

- ① 説明をしている者の職種（医師 ・ 保健師 ・ 看護師 ・ 検査技師 ・ その他（ ））
- ② 説明資料の有無（ある ・ ない）
- ③ 配布資料の有無（ある ・ ない）
- ④ 説明方法（口頭のみ ・ 結果の書面を渡す ・ その他（ ））

スクリーニング検査後の確認検査で陽性（真の陽性）となった場合

- ① 説明をしている者の職種（医師 ・ 保健師 ・ 看護師 ・ 検査技師 ・ その他（ ））
- ② 説明資料の有無（ある ・ ない）
- ③ 配布資料の有無（ある ・ ない）
- ④ 説明方法（口頭のみ ・ 結果の書面を渡す ・ その他（ ））
- ⑤ 確認検査陽性者への対応として専門のカウンセラーの派遣は可能ですか？
（経験あり ・ 実績はないが可能 ・ できない ・ 検討中 ・ その他（ ））
- ⑥ 確認検査で陽性の場合、貴保健所で発生届を提出していますか？
（行う ・ 行わない ・ 必要に応じて ・ 紹介先医療機関に依頼する ）
→「行う」としている場合、CD4 値は記入していますか？
（記入していない ・ 記入せず提出し、後日判明したら報告する ・ 医療機関に問い合わせ
て記入する）
→「行わない」「必要に応じて」としている場合、その理由を記載ください：
（ ）

8. 検査・相談の受け入れについて

やむを得ず検査・相談の受け入れを断ったことはありますか？

- （ ） はい
→ 理由：（受け入れ可能な定員数を超過したため ・ 居住地が管外であるため ・
くり返し受検のため ・ 外国人対応が困難なため ・ 学生（小・中・高校生）のため ・
COVID-19 の影響で検査体制が変わったため ・ その他（ ））
- （ ） いいえ

自治体特設 HIV 検査施設における HIV 検査体制に関する調査

* アンケートの集計結果は毎年、研究班の報告書としてまとめ報告するとともに、学会・学会誌等に発表します。原則として発表データは集計結果のみを使用し、個別の施設が分かる形では、特別に許可を得た場合を除き公表することはありません。

検査施設名:

連絡担当者名: 職種: 医師・保健師・事務・その他()

連絡先: TEL FAX E-mail

下記の質問について、選択項目については該当するものを○で囲み、その他の場合はご記載ください。

1. HIV 検査実績について(2020年1～12月の実施状況をお教え下さい。)

① HIV 検査件数

1～3月:検査数	件	うち、確認検査実施数	件	確認検査陽性数	件
4～6月:検査数	件	うち、確認検査実施数	件	確認検査陽性数	件
7～9月:検査数	件	うち、確認検査実施数	件	確認検査陽性数	件
10～12月:検査数	件	うち、確認検査実施数	件	確認検査陽性数	件

② 年間で HIV 検査の結果を聞きにこなかった受検者数: 件 うち、陽性者: 件

③ 年間の陽性者のうち、施設で発生届出を行った数: 件

④ 年間の陽性者のうち、医療機関への紹介状を発行した数: 件

⑤ 年間の陽性者のうち、医療機関を受診したことを把握できている数: 件

2. COVID-19 が HIV 検査・相談体制に与えた影響について

① 貴施設では、COVID-19 流行により検査・相談の実施体制は変化しましたか？

()変化なし

()変化あり → 回数を減らして実施 ・ 受け入れ人数を減らして実施 ・ 休止中 ・ 一時休止したが再開した

→ 「変化あり」の理由を教えてください。

(人員の不足 ・ 会場が使用不可 ・ 3密を避けることが難しい ・

その他())

→ 「変化あり」の場合、その判断はどこでされたものですか。

(施設等の判断 ・ 本庁の判断 ・ その他())

② 2020年1～12月において、HIV 検査受検者の属性(セクシュアリティ、年齢、リピーターなど)は変化したと感じますか？

(変わらない ・ 変わった(具体的に:))

③ 来年の HIV 検査・相談の実施予定について教えてください。

(従来通りに実施 ・ イベント時のみ等回数を減らして実施 ・ 受け入れ人数を減らして実施 ・ その他())

3. HIV 検査・相談事業について

① HIV 検査の際に性感染症検査を一緒に行っていますか？

()行っていない

()行っている → 毎回 ・ 毎回ではないが定期的 ・ イベント時のみ(年 回)

→ 一緒に実施している性感染症検査項目に○をつけてください。

(梅毒 ・ クラミジア(抗原または抗体) ・ 淋菌 ・ B型肝炎 ・ C型肝炎 ・ その他())

② 2020年1月以降、HIV/性感染症検査結果に関して誤った結果を通知したことはありましたか？

()なかった

()あった → 何の結果ですか(HIV ・ 性感染症)

- ③ HIV 検査陰性の証明書を発行していますか？
発行していない
発行している →有料ですか はい(円) ・ いいえ
 →記名式ですか はい ・ いいえ
- ④ HIV検査の陽性者が医療機関を受診したかどうか分かる仕組みがありますか？
ない
ある→ 把握方法を具体的に教えてください:

4. 受検者に関する情報収集・対応状況等について

- ① 受検者について把握している内容に○を付けて下さい(複数回答可)。
性別 ・ 年齢 ・ 年代 ・ 居住地域 ・ 受検の動機 ・ 受検経験 ・ 感染リスク
性的指向 ・ 感染機会の時期 ・ 今回の検査の情報源 ・ その他()
- ② 受検者の情報を把握するための質問票などを用いていますか？
用いていない ・ 検査前に用いている ・ 検査後に用いている)
- ③ 職務中の血液暴露事故が受検動機の受検者はいましたか？
わからない、または把握していない ・ いない ・ いる → 受検者数(医療職: 名 ・
 福祉職: 名 ・ 美容職: 名 ・ 清掃業: 名 ・ その他(): 名)
- ④ 中学生・高校生の検査希望者への対応はどのようにしていますか？
通常通り行う ・ 受け付けない ・ 検査、告知とも保護者同伴の条件で受け付ける
告知のみ保護者同伴の条件で受け付ける ・ その他→(具体的に:)
- ⑤ 日本語のわからない外国籍の人が受検できる仕組みがありますか？
ない ・ ある :対応言語と方法を具体的に()
- ⑥ 他所でのスクリーニング検査結果、郵送検査の結果を持参した受検者はいましたか？
いなかった ・ いた)

5. HIV 検査事業の状況について教えてください(通常・即日共に実施している場合は両方の質問にご回答ください)。「②曜日と時間」で検査を複数回実施されている場合には余白にご記入ください。

通常検査を行っている

- ① 実施方法 (定期的 ・ イベント時)
- ② 曜日と時間____曜日/(月・年)____回 受付時間:午前 ・ 午後 ・ 夜間
- ③ 予約の要否 (必要 ・ 必要なし)
- ④ 結果返却のタイミング (1週間後 ・ 2週間後 ・ 日後以降)
- ⑤ スクリーニング検査の実施施設 (自施設 ・ 他施設)
- ⑥ スクリーニング検査で HIV 陽性だった場合の確認検査の方法
WB 法のみ ・ 2次スクリーニング検査+WB 法 ・ WB 法+核酸増幅検査(NAT)法
2次スクリーニング検査+WB 法+NAT 法 ・ その他()
- ⑦ 確認検査の実施施設 (自施設 ・ 他施設())

即日検査を行っている

(スクリーニング検査で陰性であった場合、検査を受けたその日のうちにお知らせする検査を指します)

- ① 実施方法 (定期的 ・ イベント時)
- ② 曜日と時間____曜日/(月・年)____回 受付時間:午前 ・ 午後 ・ 夜間
- ③ 予約の要否 (必要 ・ 必要なし)
- ④ 確認検査の結果返却のタイミング (6日以内 ・ 1週間後 ・ 2週間後 ・ 日後以降)
- ⑤ スクリーニング検査の方法:(イムノクロマト法(ダイナスクリーン・エスプライン) ・ その他() ・ 不明)
- ⑥ スクリーニング検査の実施職員 (自施設職員 ・ 他施設職員 ・ その他())

- ⑦ スクリーニング検査で HIV 陽性だった場合の確認検査の方法
 (WB 法のみ ・ 2 次スクリーニング検査+WB 法 ・ WB 法+核酸増幅検査(NAT)法
 2 次スクリーニング検査+WB 法+NAT 法 ・ その他())
- ⑧ 確認検査の実施施設 (自施設 ・ 他施設 ())
- ⑨ 確認検査用の検体
 (迅速検査の残血液 ・ 確認検査用に採血 → (迅速検査用と同時 ・ 結果通知後))

6. 結果説明・相談体制について

(1) スクリーニング検査陰性者への対応

- ① 説明をしている者の職種 (医師 ・ 保健師 ・ 看護師 ・ 検査技師 ・ その他())
- ② 説明資料の有無 (ある ・ ない)
- ③ 配布資料の有無 (ある ・ ない)
- ④ 説明方法 (口頭のみ ・ 結果の書面を渡す ・ その他)

(2) 陽性者への対応

スクリーニング検査で陽性の場合

- ① 説明をしている者の職種 (医師 ・ 保健師 ・ 看護師 ・ 検査技師 ・ その他())
- ② 説明資料の有無 (ある ・ ない)
- ③ 配布資料の有無 (ある ・ ない)
- ④ 説明方法 (口頭のみ ・ 結果の書面を渡す ・ その他)

スクリーニング検査後、確認検査で陰性(偽陽性)となった場合

- ① 説明をしている者の職種 (医師 ・ 保健師 ・ 看護師 ・ 検査技師 ・ その他())
- ② 説明資料の有無 (ある ・ ない)
- ③ 配布資料の有無 (ある ・ ない)
- ④ 説明方法 (口頭のみ ・ 結果の書面を渡す ・ その他)

スクリーニング検査後の確認検査で陽性(真の陽性)となった場合

- ① 説明をしている者の職種 (医師 ・ 保健師 ・ 看護師 ・ 検査技師 ・ その他())
- ② 説明資料の有無 (ある ・ ない)
- ③ 配布資料の有無 (ある ・ ない)
- ④ 説明方法 (口頭のみ ・ 結果の書面を渡す ・ その他())
- ⑤ 確認検査陽性者への対応として専門のカウンセラーの派遣は可能ですか？
 (経験あり ・ 実績はないが可能 ・ できない ・ 検討中 ・ その他())
- ⑥ 確認検査で陽性の場合、施設で発生届を提出していますか？
 (行う ・ 行わない ・ 必要に応じて ・ 紹介先医療機関に依頼する)
 →「行う」としている場合、CD4 値は記入していますか？
 (記入していない ・ 記入せず提出し、後日判明したら報告する ・ 医療機関に問い合わせ
 て記入する)
 →「行わない」「必要に応じて」としている場合、その理由を記載ください:
 ())

7. 検査・相談の受け入れについて

やむを得ず検査・相談の受け入れを断ったことはありますか？

() はい

→ 理由: (受け入れ可能な定員数を超過したため ・ 居住地が管外であるため ・
 くり返し受検のため ・ 外国人対応が困難なため ・ 学生(小・中・高校生)のため ・
 COVID-19 の影響で検査体制が変わったため ・ その他())

() いいえ

保健所における梅毒検査体制に関する調査

* アンケートの集計結果は研究班の報告書としてまとめるとともに、学会・学会誌等に発表します。原則として発表データは集計結果のみを使用し、個別の施設が分かる形では、特別に許可を得た場合を除き公表することはありません。

保健所名: _____

連絡担当者名: _____ 職種: 医師・保健師・事務・その他(_____)

連絡先: TEL _____ FAX _____ E-mail _____

下記の質問について、ご記載下さい。

選択項目については、該当するものを○で囲み、その他の場合は記載をお願いします。

全保健所にお伺いします。

梅毒検査を実施していますか? → (している・していない・今後実施予定)

実施していない又は今後実施予定の保健所は質問終了です。ご協力ありがとうございました。

現時点で梅毒検査を実施している保健所にお尋ねします。

(1) 検査体制に関するご質問

① 梅毒検査について、検査費用の自己負担はありますか。

() 有(有料 _____ 円) ・ () ない(無料)

② 梅毒検査単独でも検査を受けることができますか。

() 梅毒検査単独でも受けられる ・ () HIV 検査と一緒にのみ受けられる

③ 梅毒検査の実施状況について、教えてください。(通常・即日共に実施している場合は両方の質問にご回答ください)

() 通常検査を行っている

→検査方法

() STS 法のみ

() TP 抗体検査のみ

() STS 法と TP 抗体検査を同時実施

() STS 法で陽性の場合、TP 抗体検査を追加実施

() TP 抗体検査で陽性の場合、STS 法を追加実施

() TP 抗体検査で陽性の場合、STS 法・TP 抗体検査を追加実施

() その他:

→結果返却のタイミング (6 日以内 ・ 1 週間後 ・ 2 週間後 ・ _____ 日後以降)

→通常検査の実施施設 (自施設 ・ 他施設(_____))

() 即日検査を行っている

→検査方法

() STS 法のみ

() TP 抗体検査のみ

() STS 法と TP 抗体検査を同時実施

() STS 法で陽性の場合、TP 抗体検査を追加実施

() TP 抗体検査で陽性の場合、STS 法を追加実施

() TP 抗体検査で陽性の場合、STS 法・TP 抗体検査を追加実施

() その他:

→追加検査を実施した場合の結果返却のタイミング(6 日以内 ・ 1 週間後 ・ 2 週間後 ・ _____ 日後以降)

STS 法: 脂質(カルジオリピン)を抗原とする検査

TP 抗体検査: 梅毒病原体である T.Pallidum を抗原とする検査

→即日検査の実施職員（自施設職員・他施設職員・その他（ ））

(2) 検査実績に関するご質問

① 1年間(2020年1-12月)の梅毒検査数・陽性数を教えてください。

(※内訳については、わかる範囲で記載いただければ幸いです)

受検者数 () 件)うち陽性者数 () 件)

STS法検査実施数 () 件)うち陽性数 () 件)

TP抗体検査実施数 () 件)うち陽性数 () 件)

② 梅毒検査が陽性だった場合の対応について、当てはまるもの全てに○を付けてください

(複数回答可)

(結果告知のみ・受診勧奨・医療機関紹介・紹介状発行・パートナーの検査勧奨・
その他_____)

③ 梅毒検査陰性の証明書を発行していますか？

()発行していない

()発行している →有料ですか ()はい()円) ・ ()いいえ

→記名式ですか ()はい ・ ()いいえ

④ 梅毒検査の陽性者が医療機関を受診したかどうか分かる仕組みがありますか？

() ない

() ある→ 把握方法を具体的に教えてください:

⑤ 梅毒検査相談を実施する上で、問題点や課題等がございましたら、ご記入ください。

ご協力ありがとうございました

自治体特設 HIV 検査施設における梅毒検査体制に関する調査

* アンケートの集計結果は研究班の報告書としてまとめるとともに、学会・学会誌等に発表します。原則として発表データは集計結果のみを使用し、個別の施設が分かる形では、特別に許可を得た場合を除き公表することはありません。

検査施設名: _____

連絡担当者名: _____ 職種: 医師・保健師・事務・その他(_____)

連絡先: TEL _____ FAX _____ E-mail _____

下記の質問について、選択項目については、該当するものを○で囲み、その他の場合はご記載下さい。

全施設にお伺いします。

梅毒検査を実施していますか? → (している・していない・今後実施予定)

実施していない又は今後実施予定の施設については質問終了です。ご協力ありがとうございました。

現時点で梅毒検査を実施している施設にお尋ねします。

(1) 検査体制に関するご質問

① 梅毒検査について、検査費用の自己負担はありますか。

() あり(有料 _____ 円) ・ () ない(無料)

② 梅毒検査単独でも検査を受けることができますか。

() 梅毒検査単独でも受けられる ・ () HIV検査と一緒にする場合のみ受けられる

③ 梅毒検査の実施状況について教えてください(通常・即日共に実施している場合は両方の質問にご回答ください)。

() 通常検査を行っている

→検査方法

() STS法のみ

() TP抗体検査のみ

() STS法とTP抗体検査を同時実施

() STS法で陽性の場合、TP抗体検査を追加実施

() TP抗体検査で陽性の場合、STS法を追加実施

() TP抗体検査で陽性の場合、STS法・TP抗体検査を追加実施

() その他:

→結果返却のタイミング (6日以内 ・ 1週間後 ・ 2週間後 ・ _____ 日後以降)

→梅毒検査の実施施設 (自施設 ・ 他施設(_____))

() 即日検査を行っている

→検査方法

() STS法のみ

() TP抗体検査のみ

() STS法とTP抗体検査を同時実施

() STS法で陽性の場合、TP抗体検査を追加実施

() TP抗体検査で陽性の場合、STS法を追加実施

() TP抗体検査で陽性の場合、STS法・TP抗体検査を追加実施

() その他:

→追加検査を実施した場合の結果返却のタイミング(6日以内 ・ 1週間後 ・ 2週間後 ・ _____ 日後以降)

→即日検査の実施職員 (自施設職員 ・ 他施設職員 ・ その他(_____))

STS法: 脂質(カルジオリピン)を抗原とする検査

TP抗体検査: 梅毒病原体である T.Pallidum を抗原とする検査

(2) 検査実績に関するご質問

① 1年間(2020年1-12月)の梅毒検査数・陽性数を教えてください。

(※内訳については、わかる範囲で記載いただければ幸いです)

受検者数 () 件)うち陽性者数 () 件)
STS 法検査実施数 () 件)うち陽性数 () 件)
TP 抗体検査実施数 () 件)うち陽性数 () 件)

② 梅毒検査が陽性だった場合の対応について、当てはまるもの全てに○を付けてください

(複数回答可)

(結果告知のみ ・ 受診勧奨 ・ 医療機関紹介 ・ 紹介状発行 ・ パートナーの検査勧奨 ・
その他_____)

③ 梅毒検査陰性の証明書を発行していますか？

()発行していない

()発行している →有料ですか ()はい()円) ・ ()いいえ

→記名式ですか ()はい ・ ()いいえ

④ 梅毒検査の陽性者が医療機関を受診したかどうか分かる仕組みがありますか？

() ない

() ある→ 把握方法を具体的に教えてください:

⑤ 梅毒検査相談を実施する上で、問題点や課題等がございましたら、ご記入ください。

ご協力ありがとうございました

R2年度保健所アンケート(HIV)

図1 保健所等におけるHIV検査体制に関する全国調査の結果 (2021年2月24日)

保健所アンケート 回答数(2021.2/24現在) 305/531箇所(57%)

2020年にHIV検査を実施した保健所 303/305箇所(99%)

2020年に陽性結果のあった保健所 49/303箇所(16%)

陽性件数 88/32,211 (陽性率0.27%)

陽性結果を伝えられた件数→ 87/88(99%)

受診したことを把握できた件数→ 75/87(86%)

発生動向調査の報告を行った感染者数件数→47/88(53%)

(陰性結果を伝えられた件数→30,971/32,128(96%))

図2 保健所HIV検査 一 四半期ごとの検査数と陽性数一 (n=302)

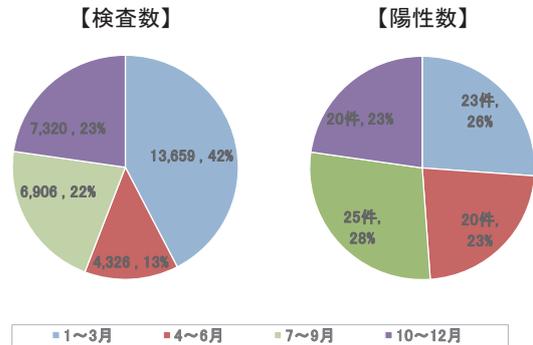


図3 年間検査件数別の保健所数と検査数の割合 (2020年)

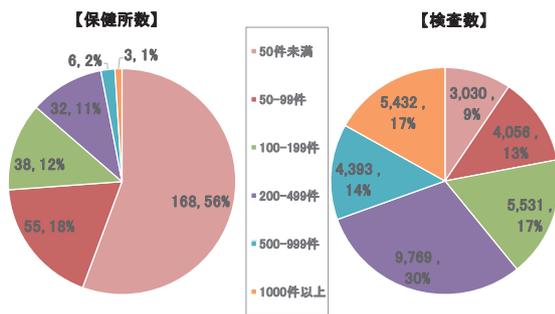


図4 年間検査件数別の保健所数 (2020年) (n=302)

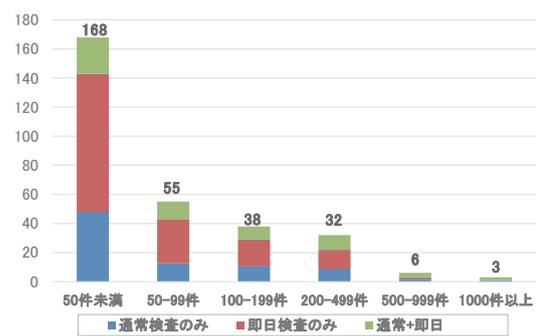


図5 年間検査件数別の陽性率 (2020年)

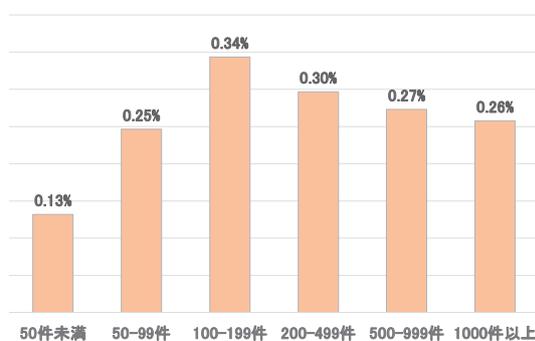
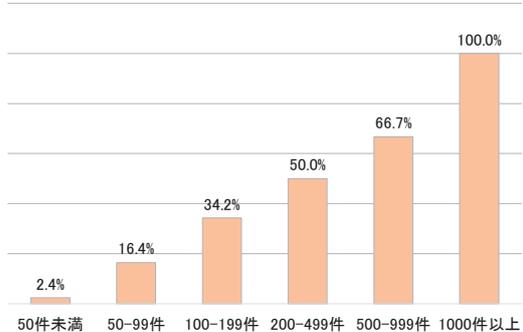


図6 年間検査件数別の陽性経験率 (2020年)



R2年度保健所アンケート(HIV)

図7 (2020年)
発生届出を行った陽性者数
(n=88)

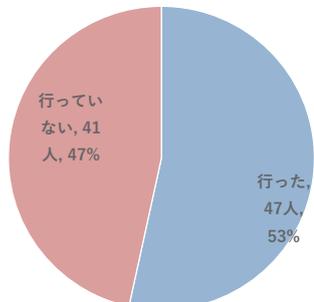


図8 (2020年)
医療機関への紹介状を発行した陽性者数
(n=88)

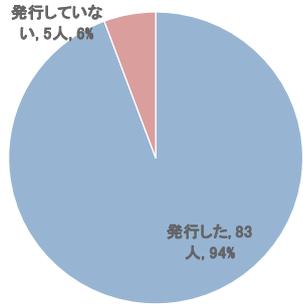


図9 (2020年)
医療機関を受診したことを把握できている陽性者数
(n=87)

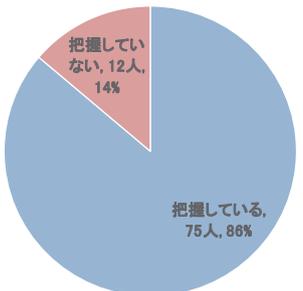


図10 (2020年)
— COVID-19が検査体制に与えた影響について—
実施体制に変化がありましたか？
(n=303)

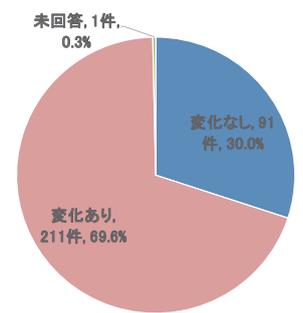


図11 (2020年)
— COVID-19が検査体制に与えた影響について—
どのように変化しましたか？
(n=211) 複数回答

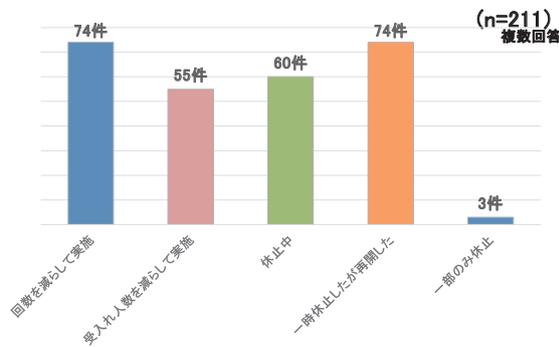
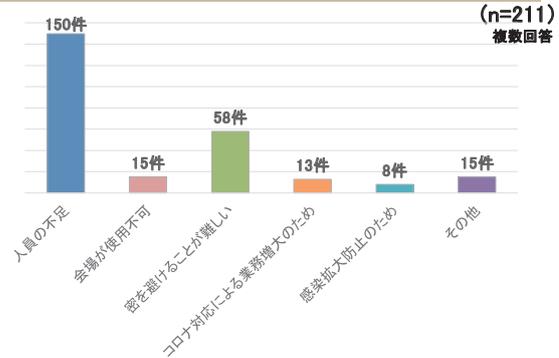


図12 (2020年)
— COVID-19が検査体制に与えた影響について—
変化の理由を教えてください
(n=211) 複数回答



R2年度保健所アンケート(HIV)

図13 — COVID-19が検査体制に与えた影響について判断はどこでされたものですか？ (2020年)

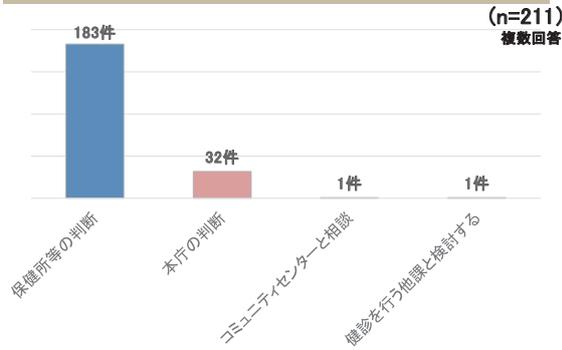


図14 — COVID-19が検査体制に与えた影響について受検者の属性は変化しましたか？ (2020年)

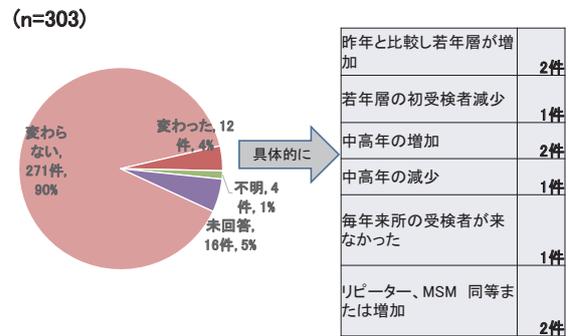


図15 — COVID-19が検査体制に与えた影響について来年の実施予定について (2020年)

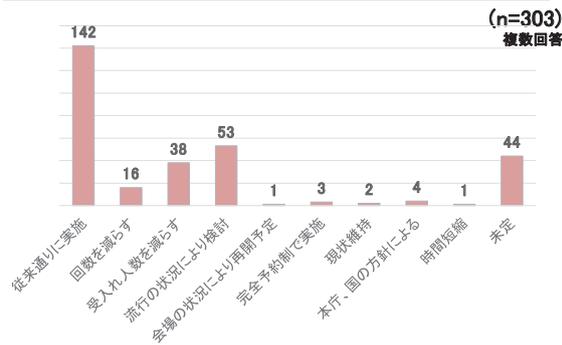


図16 — HIV以外の性感染症検査を行っていますか？ (2020年)

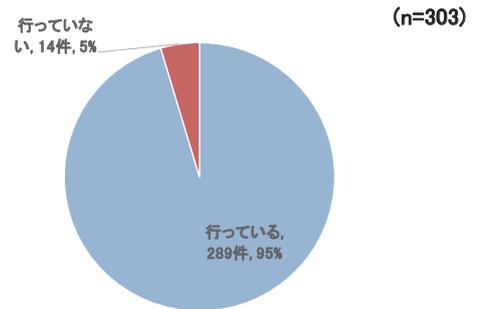


図17 — HIV以外の性感染症検査を行っていますか？ (2020年)

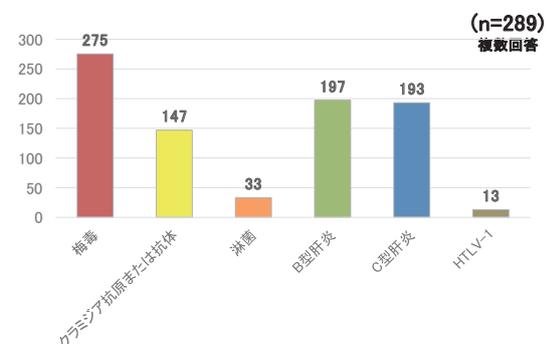
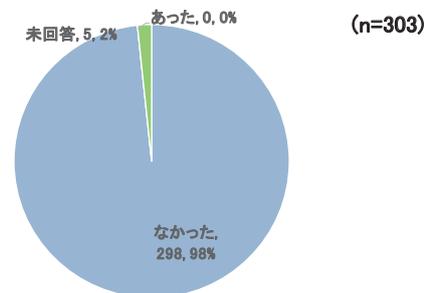


図18 — 検査結果について誤通知がありましたか？ (2020年)



R2年度保健所アンケート(HIV)

図19 (2020年)

HIV検査陰性の証明書を発行していますか？

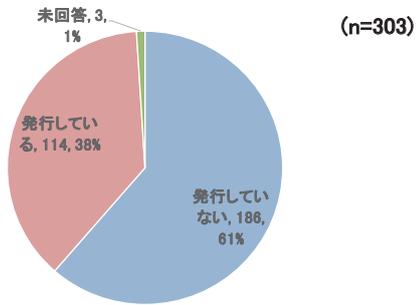


図20 (2020年)

証明書の発行は有料ですか？

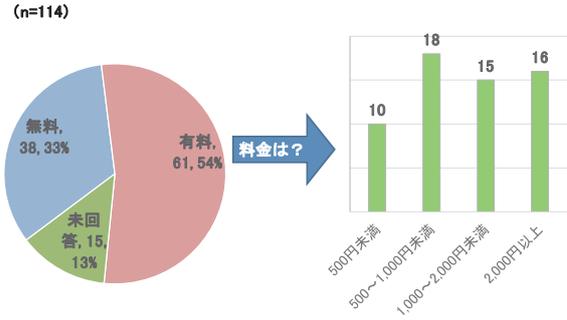


図21 (2020年)

証明書の発行は記名式ですか？

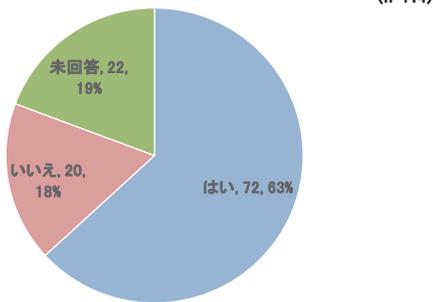


図22 (2020年)

陽性者が医療機関を受診したかどうか分かる仕組みがありますか？

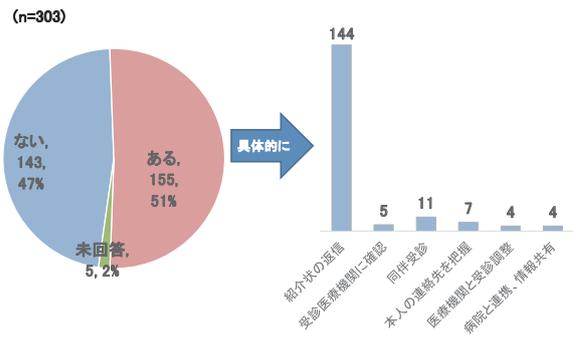


図23 (2020年)

受検者について把握している内容

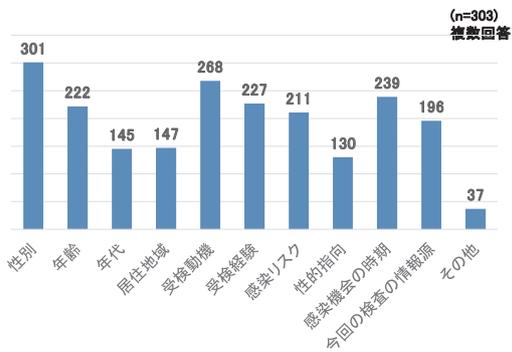
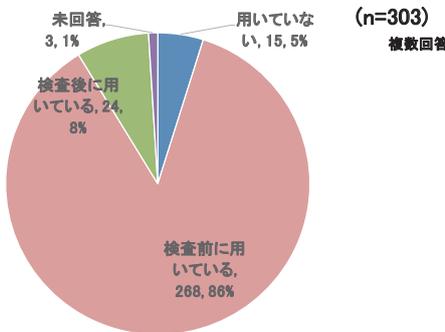


図24 (2020年)

受検者の情報を把握するための質問票などを用いていますか？



R2年度保健所アンケート(HIV)

図25 (2020年)

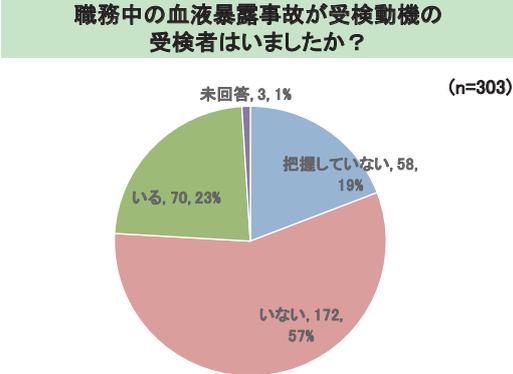


図26 (2020年)

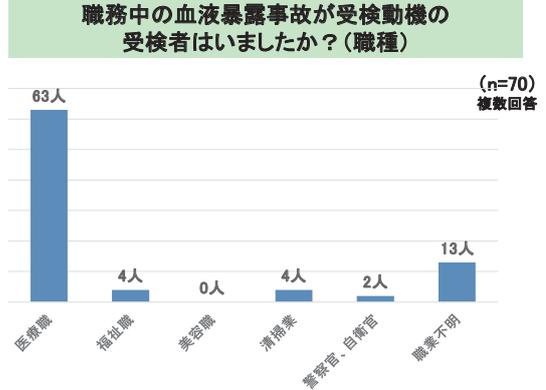


図27 (2020年)

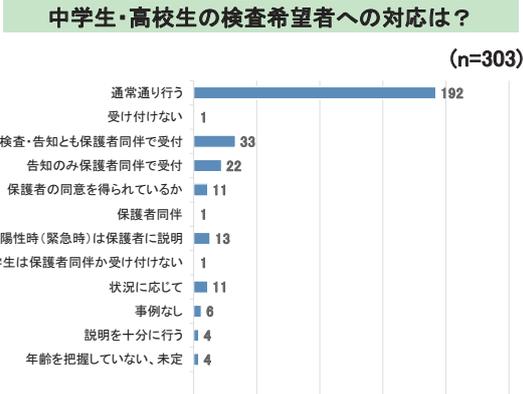


図28 (2020年)

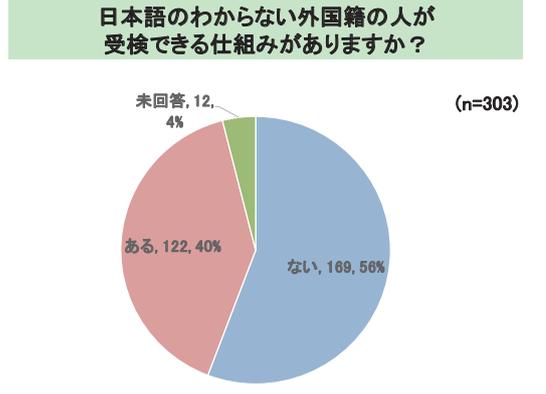


図29 (2020年)

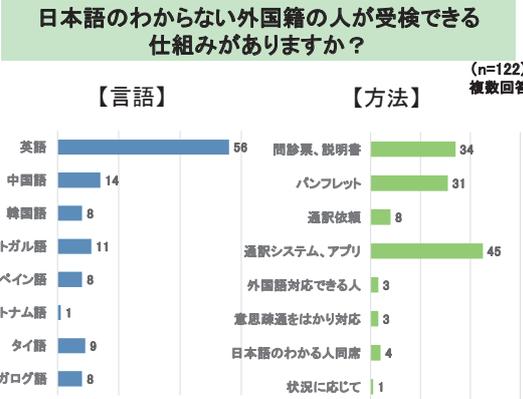
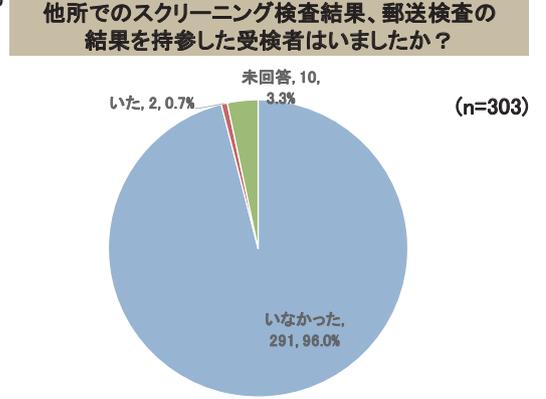


図30 (2020年)



R2年度保健所アンケート(HIV)

図31 (2020年)

保健所HIV検査
— 即日検査と通常検査 —

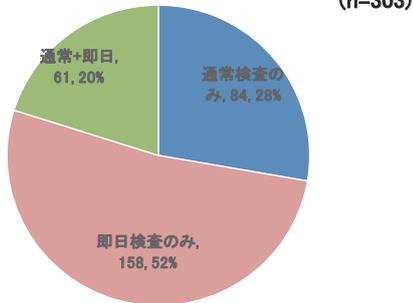


図32 (2020年)

保健所HIV検査
— 平日、夜間、土曜・日曜 —

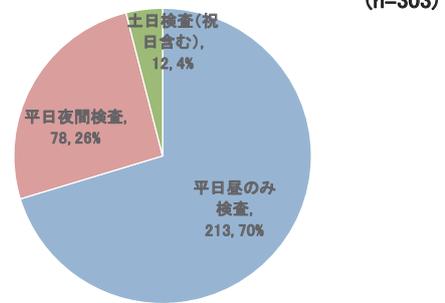


図33 (2020年)

各種HIV検査の実施状況 (保健所数の割合)

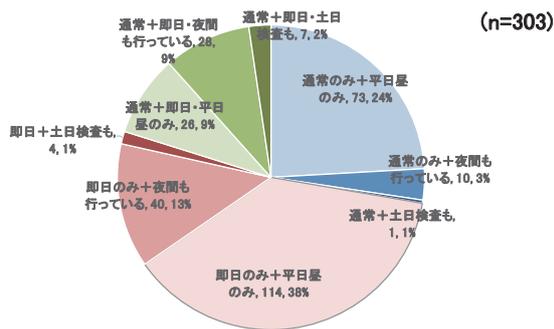


図34 (2020年)

各種HIV検査の受検者数

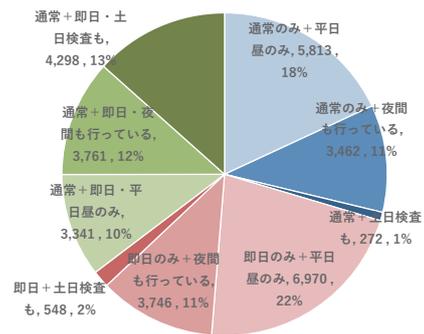


図35 (2020年)

各種HIV検査の陽性者数

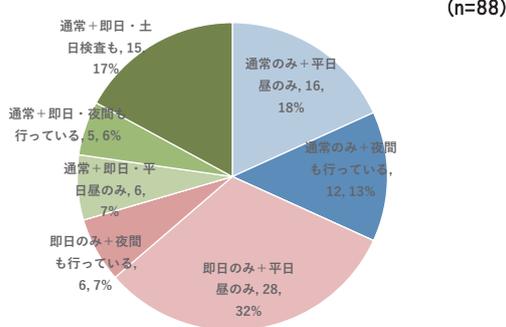
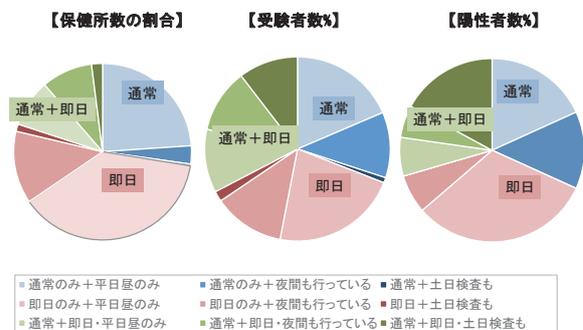


図36 (2020年)

各種HIV検査の実施状況



R2年度保健所アンケート(HIV)

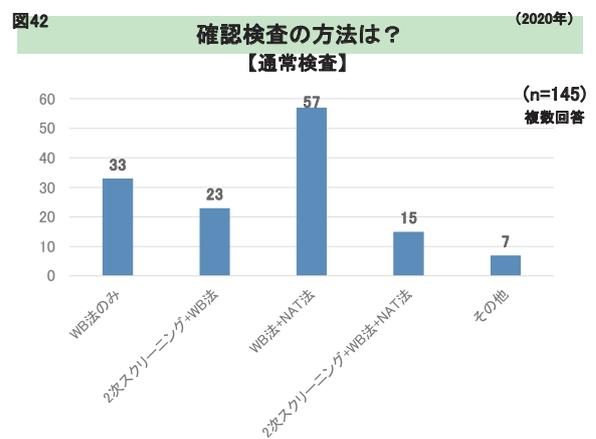
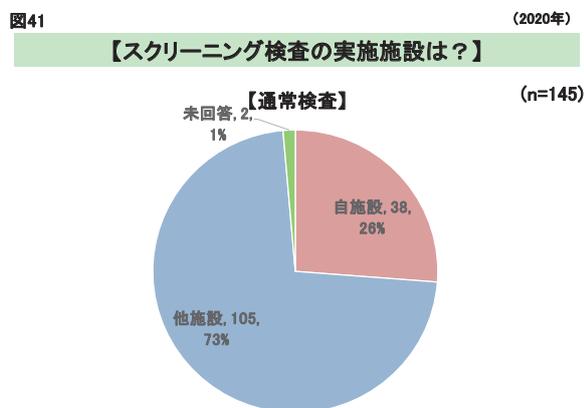
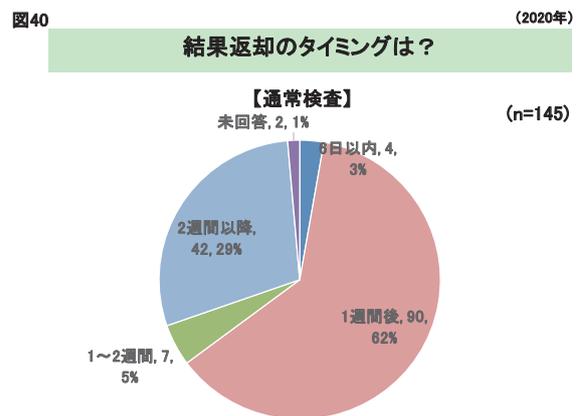
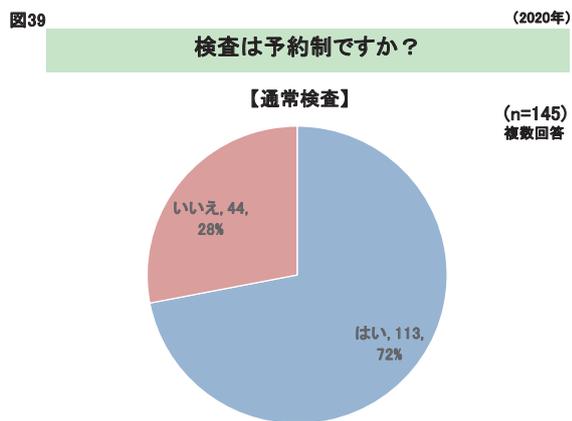
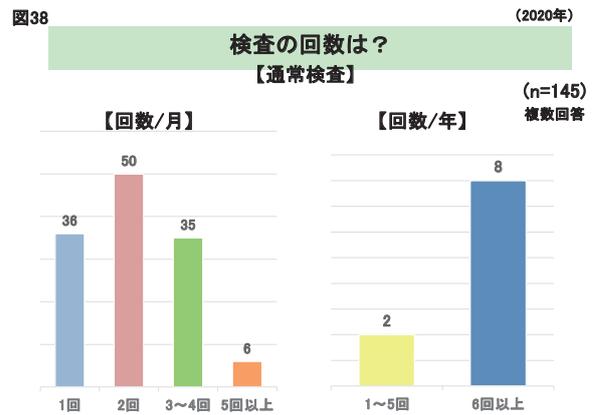
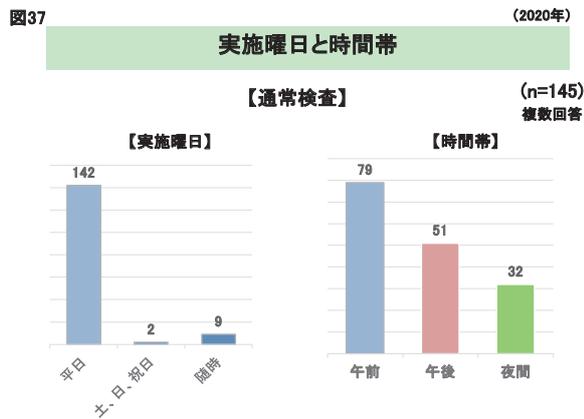


図43 (2020年)

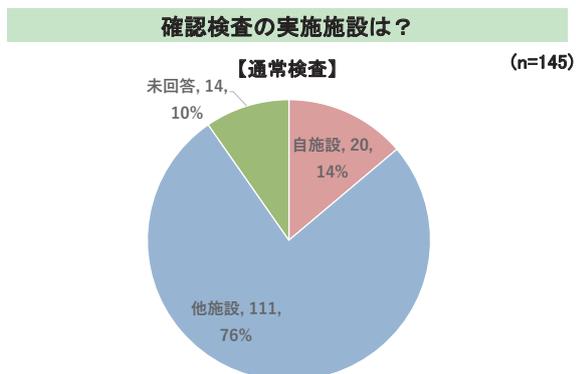


図44 (2020年)



図45 (2020年)

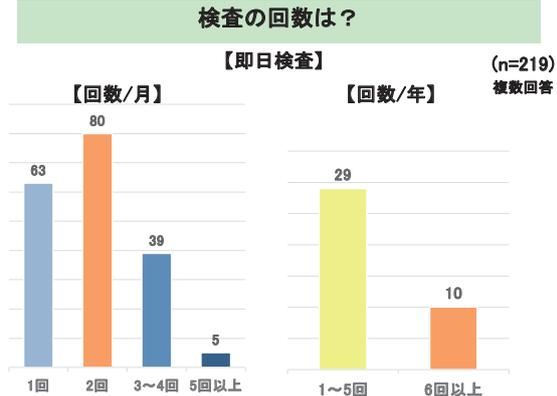


図46 (2020年)

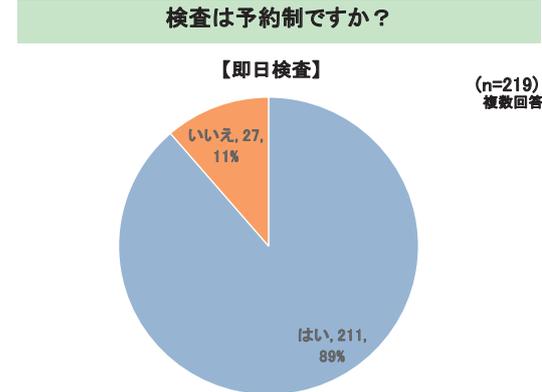


図47 (2020年)

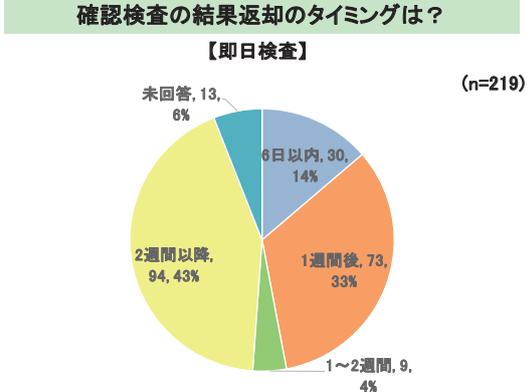
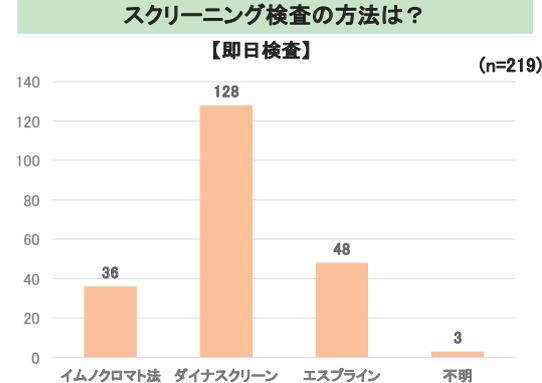


図48 (2020年)



R2年度保健所アンケート(HIV)

図49 (2020年) 【スクリーニング検査の実施施設は？】

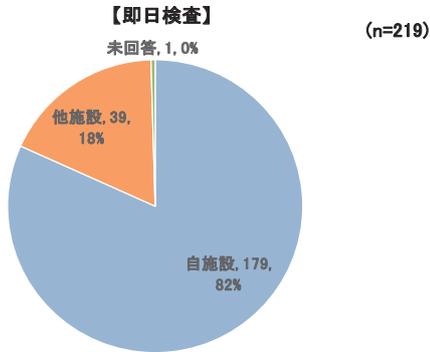


図50 (2020年) 確認検査の方法は？



図51 (2020年) 確認検査の実施施設は？

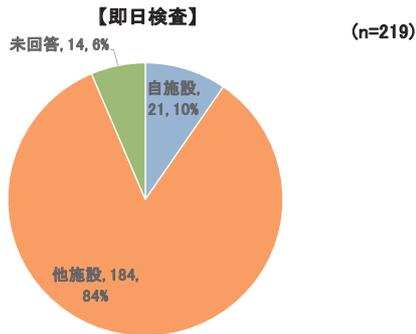


図52 (2020年) 確認検査用 検体は？

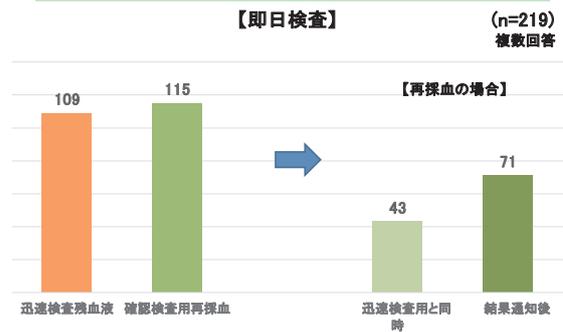


図53 (2020年) 結果説明時の担当者 (n=303) 複数回答

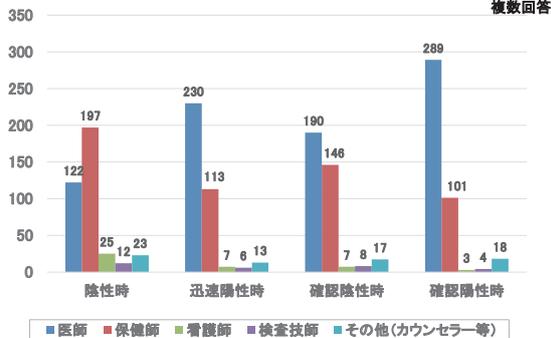
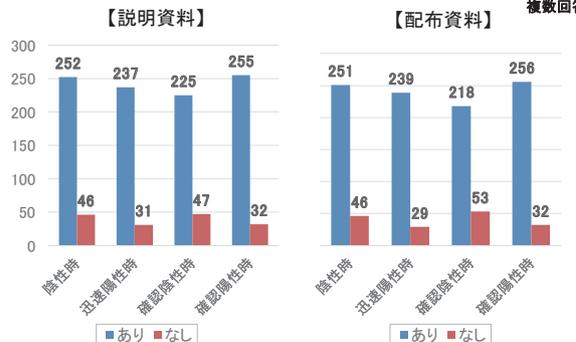


図54 (2020年) 結果説明時・相談体制について (n=303) 複数回答



R2年度保健所アンケート(HIV)

図55 (2020年)

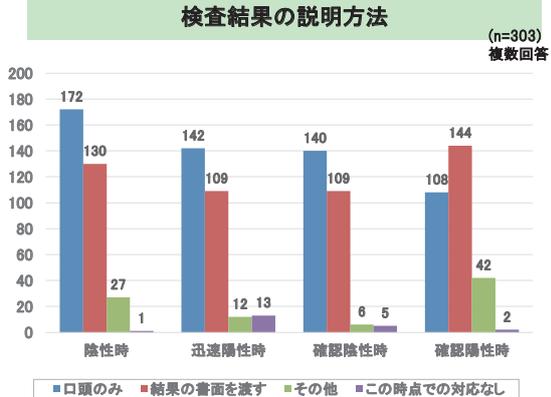


図56 (2020年)

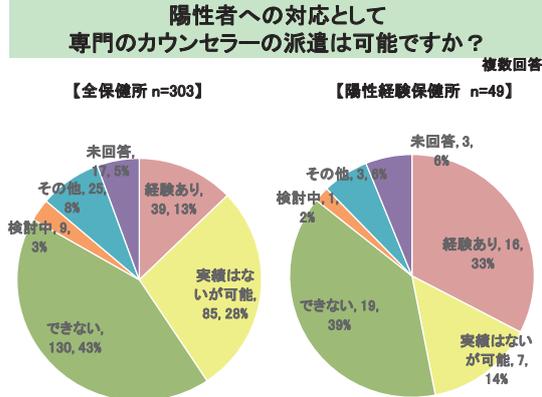


図57 (2020年)

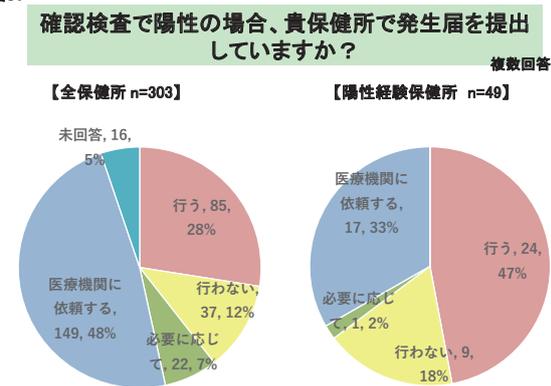


図58 (2020年)

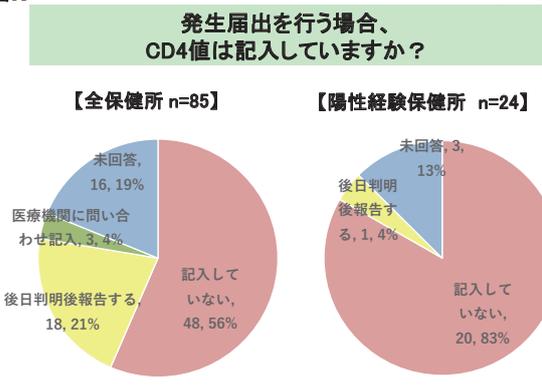
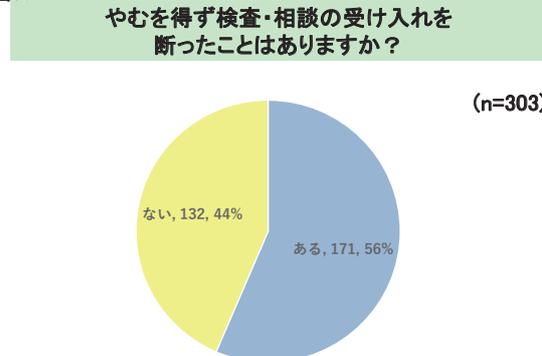


図59 (2020年)

貴保健所で発生届を提出していない場合、その理由をお書きください

AIDSの診断基準となる検査が保健所ではできないため	6
医療機関で実施した検査をもとに医療機関で総合的に診療するため	26
病院からの報告との重複を避けるため	2
実績がないため不明	6
その他	4

図60 (2020年)



R2年度保健所アンケート(HIV)

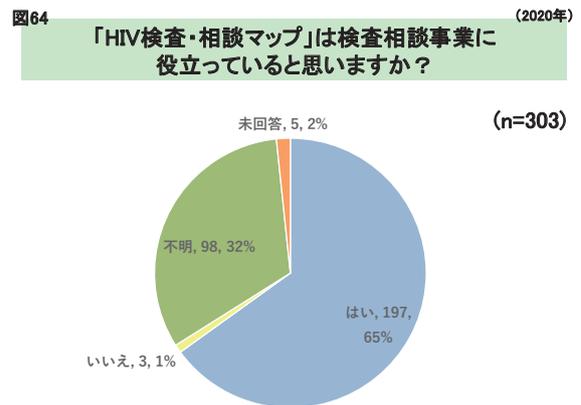
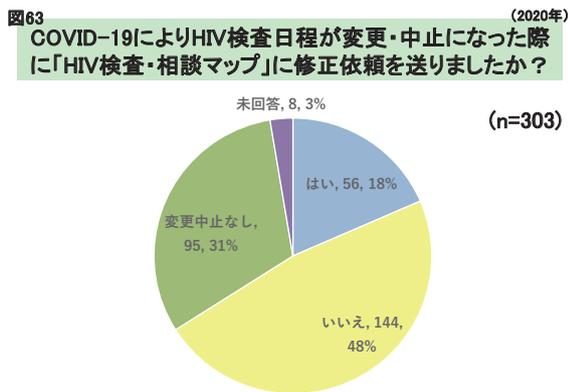
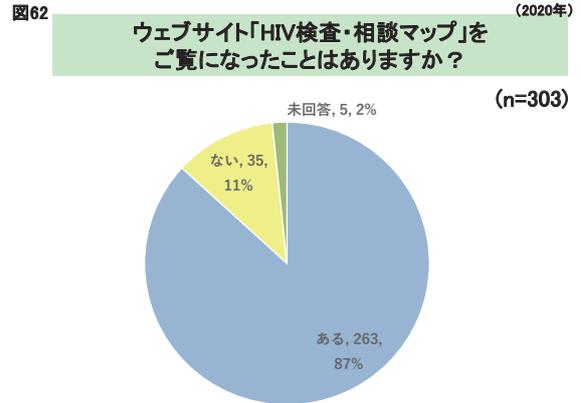


図65 (2020年)
5年間の検査数・陽性数推移
(保健所HIV)

	H28	H29	H30	R1	R2
送付数	563	562	566	557	531
回収数	469	491	478	488	305
回収率	83.3%	87.4%	84.5%	87.6%	57.4%
有効回答数	467	490	477	488	303
検査数	75,584	85,965	86,144	96,824	32,211
うち陽性数	221	239	197	220	88
陽性率	0.29%	0.28%	0.23%	0.23%	0.27%



R2年度特設 アンケート(HIV)

特設-1 自治体特設検査相談施設等における HIV検査体制に関する全国調査の結果 (2021年2月23日)

特設機関アンケート 回答数 (2021.2/23現在) 15/19箇所 (74%)

2020年に陽性結果のあった特設検査機関 10/15箇所 (67%)

陽性件数 122/20,752 (陽性率 0.6%)

陽性結果を伝えられた件数 → 116/122 (95%)

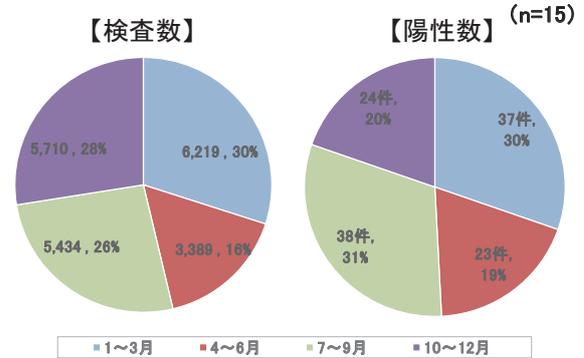
受診したことを把握できた件数 → 92/116 (79%)

発生動向調査の報告を行った感染者数件数 → 91/122 (75%)

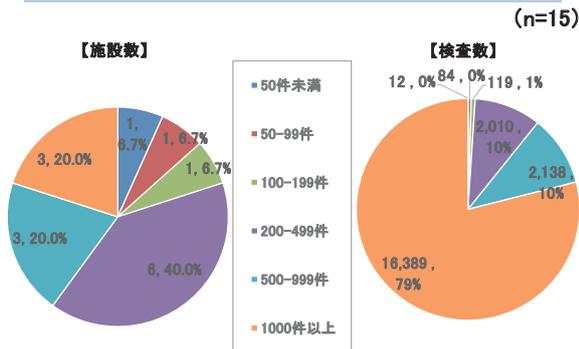
(陰性結果を伝えられた件数 → 20,333/20,630 (99%))

2021/3/26

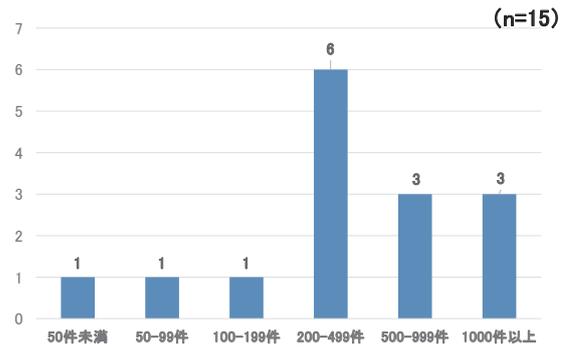
特設-2 自治体特設検査施設 HIV検査 ー 四半期ごとの検査数と陽性数 ー (2020年)



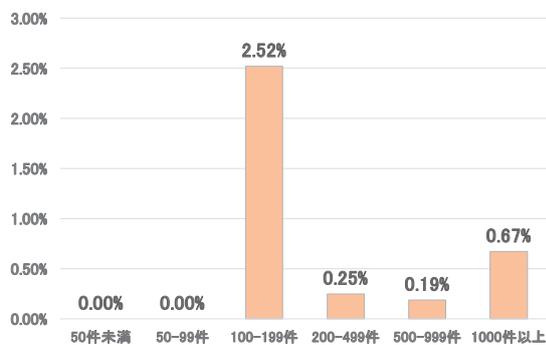
特設-3 年間検査件数別の施設数と検査数の割合 (2020年)



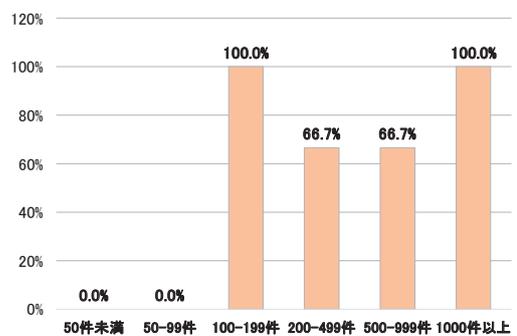
特設-4 年間検査件数別の施設数 (2020年)



特設-5 年間検査件数別の陽性率 (2020年)

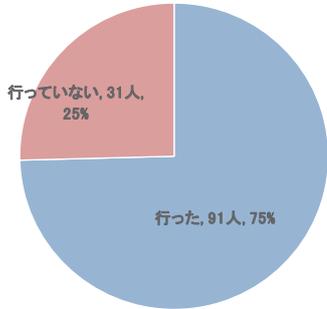


特設-6 年間検査件数別の陽性経験率 (2020年)

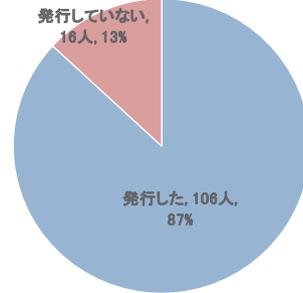


R2年度特設 アンケート(HIV)

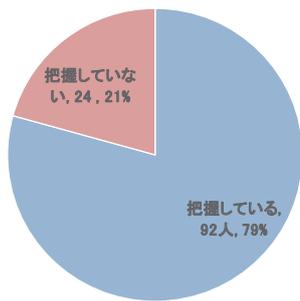
特設-7 (2020年)
発生届出を行った陽性者数 (n=122)



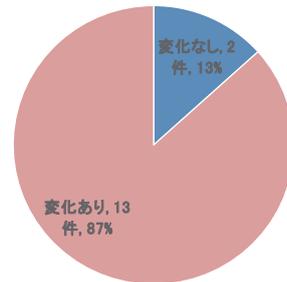
特設-8 (2020年)
医療機関への紹介状を発行した陽性者数 (n=122)



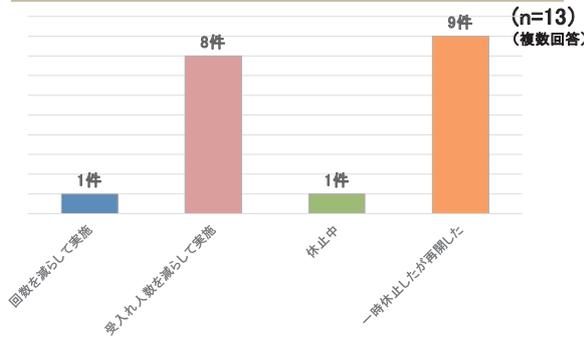
特設-9 (2020年)
医療機関を受診したことを把握できている陽性者数 (n=116)



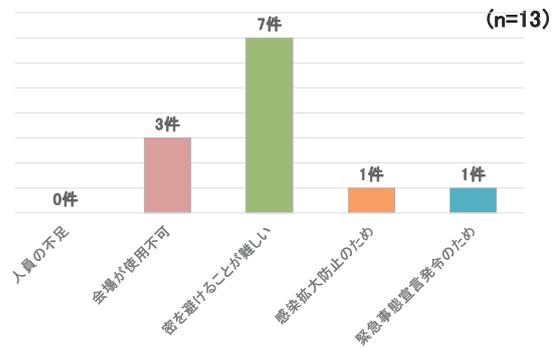
特設-10 (2020年)
— COVID-19が検査体制に与えた影響について—
実施体制に変化がありましたか？ (n=15)



特設-11 (2020年)
— COVID-19が検査体制に与えた影響について—
どのように変化しましたか？ (n=13) (複数回答)

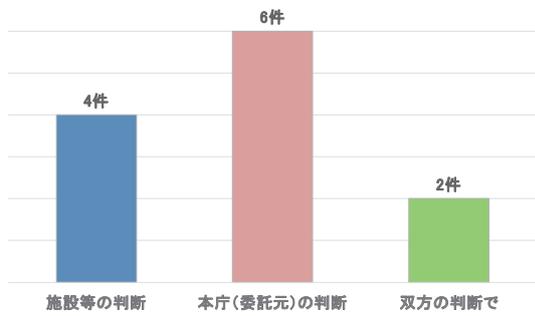


特設-12 (2020年)
— COVID-19が検査体制に与えた影響について—
変化の理由を教えてください (n=13)

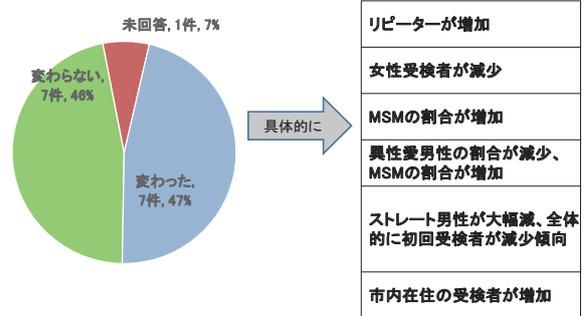


R2年度特設 アンケート(HIV)

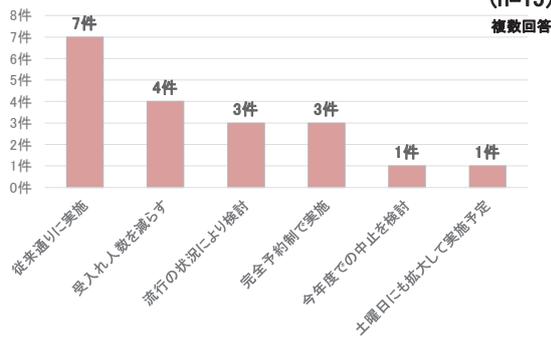
特設-13 (2020年)
COVID-19が検査体制に与えた影響について—
判断はどこでされたものですか？
(n=13)



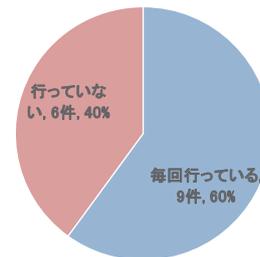
特設-14 (2020年)
COVID-19が検査体制に与えた影響について—
受検者の属性は変化しましたか？
(n=15)



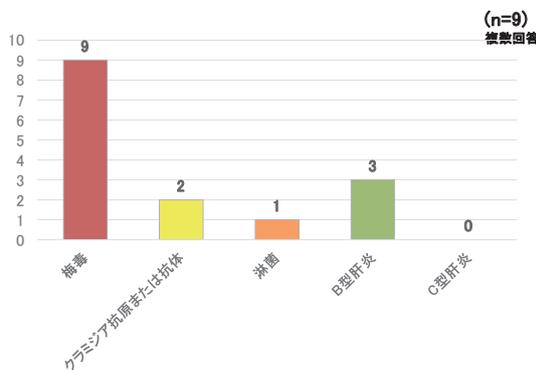
特設-15 (2020年)
COVID-19が検査体制に与えた影響について—
来年の実施予定について
(n=15)
複数回答



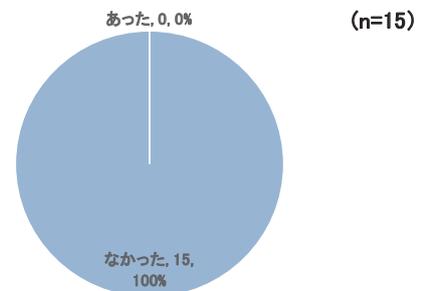
特設-16 (2020年)
HIV以外の性感染症検査を行っていますか？
(n=15)



特設-17 (2020年)
HIV以外の性感染症検査を行っていますか？
(n=9)
複数回答



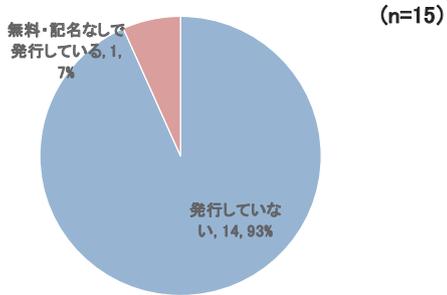
特設-18 (2020年)
検査結果について誤通知がありましたか？
(n=15)



R2年度特設 アンケート(HIV)

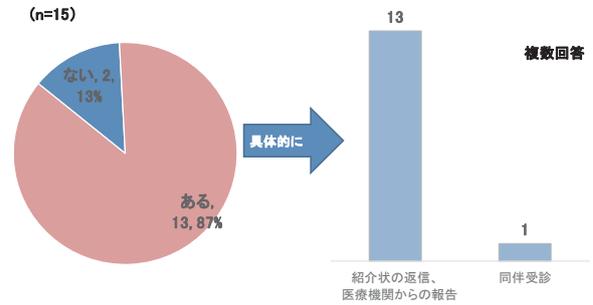
特設-19 (2020年)

HIV検査陰性の証明書を発行していますか？



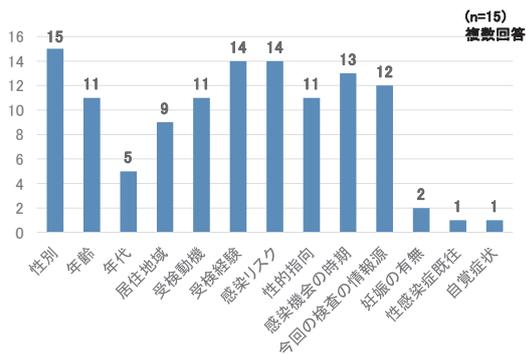
特設-20 (2020年)

陽性者が医療機関を受診したかどうか分かる仕組みがありますか？



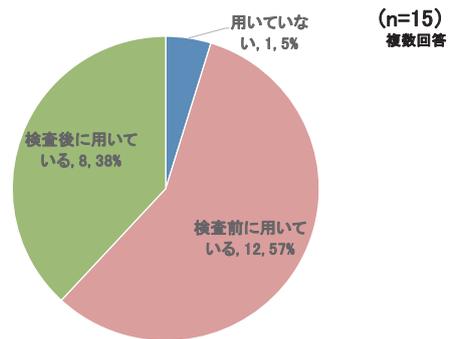
特設-21 (2020年)

受検者について把握している内容



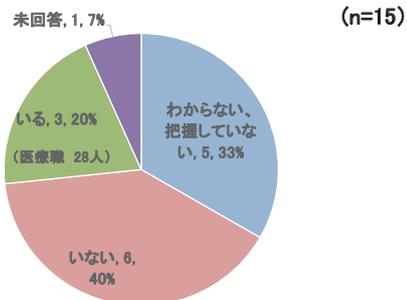
特設-22 (2020年)

受検者の情報を把握するための質問票などを用いていますか？



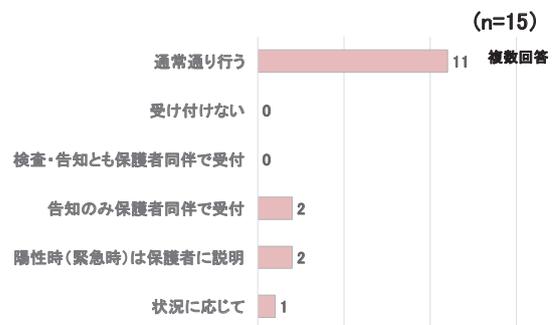
特設-23 (2020年)

職務中の血液暴露事故が受検動機の受検者はいましたか？



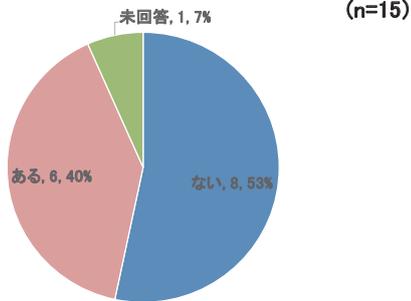
特設-24 (2020年)

中学生・高校生の検査希望者への対応は？

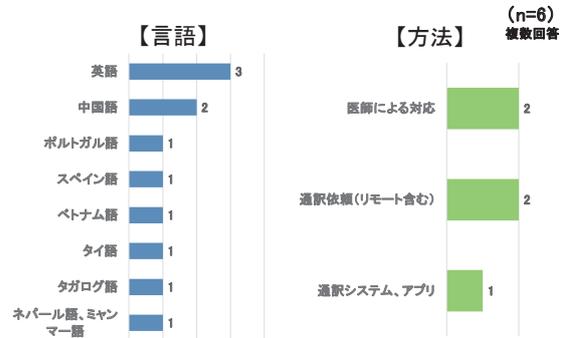


R2年度特設 アンケート(HIV)

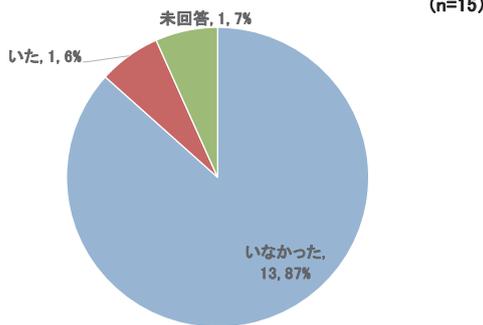
特設-25 (2020年)
日本語のわからない外国籍の人が受検できる仕組みがありますか？



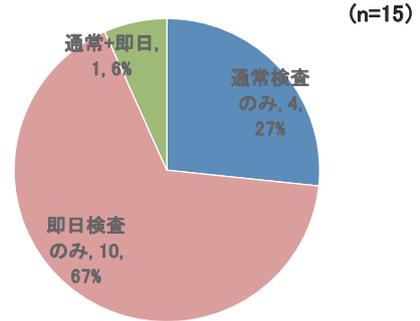
特設-26 (2020年)
日本語のわからない外国籍の人が受検できる仕組みがありますか？



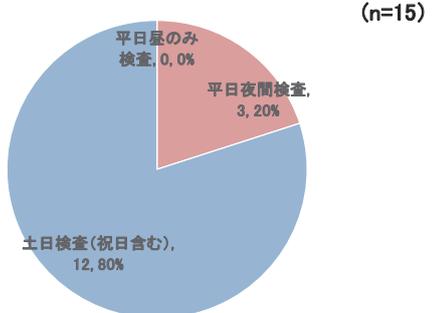
特設-27 (2020年)
他所でのスクリーニング検査結果、郵送検査の結果を持参した受検者はいましたか？



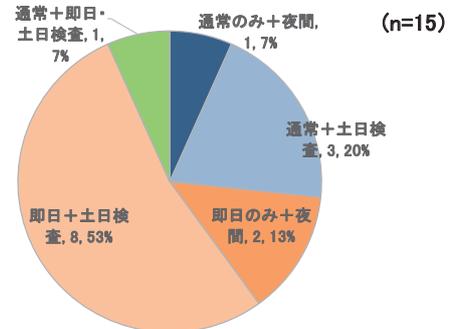
特設-28 (2020年)
施設 HIV検査 — 即日検査と通常検査 —



特設-29 (2020年)
施設 HIV検査 — 平日、夜間、土曜・日曜 —



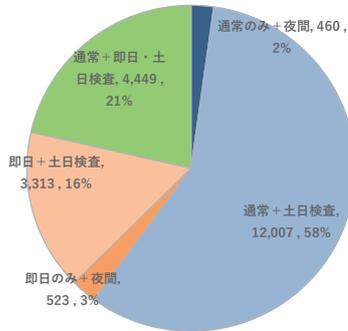
特設-30 (2020年)
各種HIV検査の実施状況 (施設数の割合)



R2年度特設 アンケート(HIV)

特設-31 (2020年)

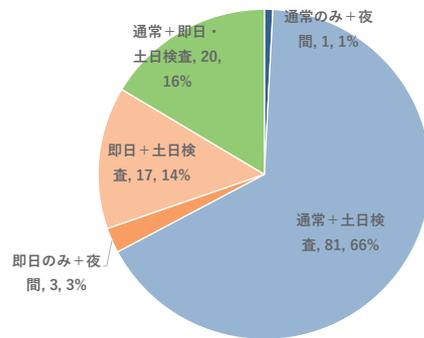
各種HIV検査の受検者数



特設-32 (2020年)

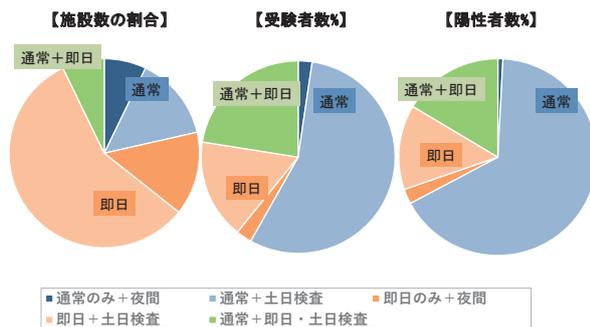
各種HIV検査の陽性者数

(n=122)



特設-33 (2020年)

各種HIV検査の実施状況

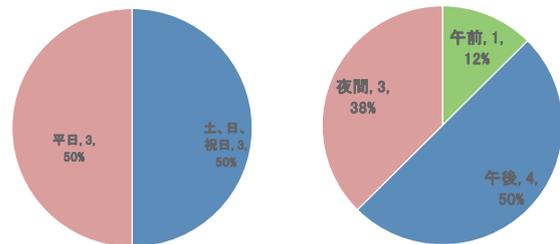


特設-34 (2020年)

実施曜日と時間帯

【通常検査】

(n=5)
複数回答

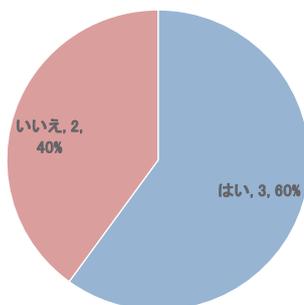


特設-35 (2020年)

検査は予約制ですか？

【通常検査】

(n=5)

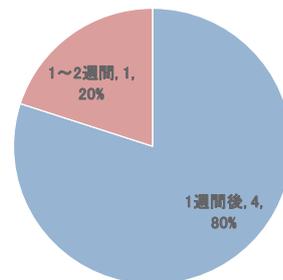


特設-36 (2020年)

結果返却のタイミングは？

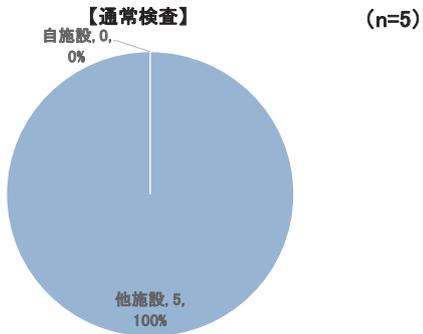
【通常検査】

(n=5)

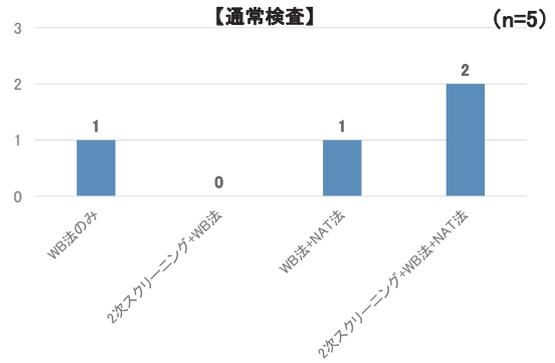


R2年度特設 アンケート(HIV)

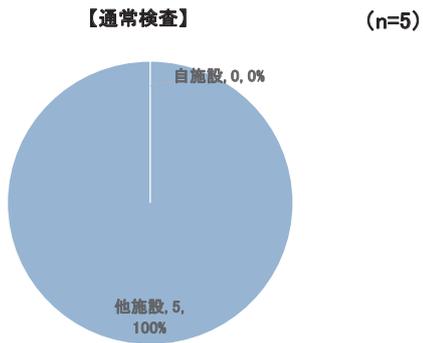
特設-37 (2020年) 【スクリーニング検査の実施施設は？】



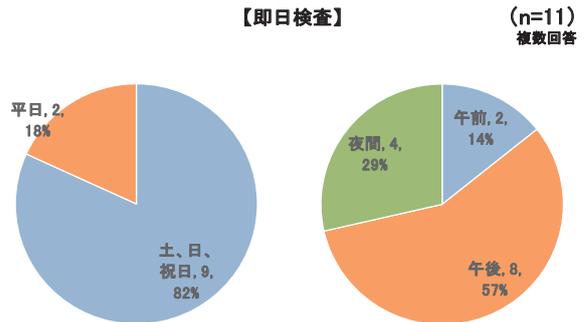
特設-38 (2020年) 確認検査の方法は？



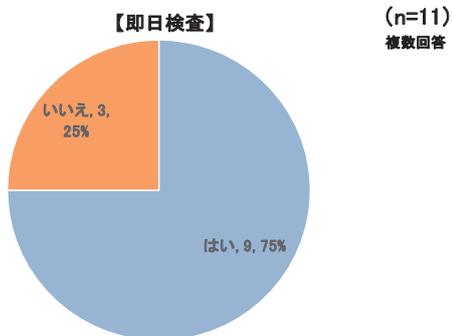
特設-39 (2020年) 確認検査の実施施設は？



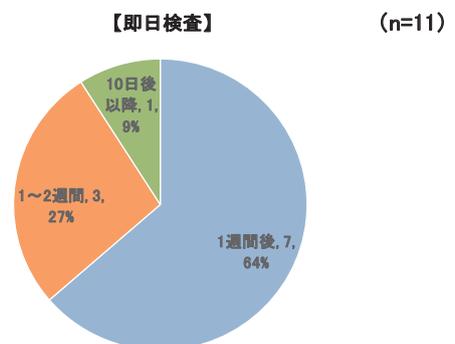
特設-40 (2020年) 実施曜日と時間帯



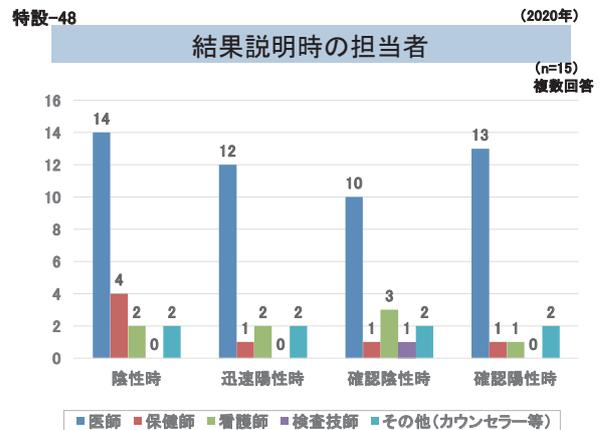
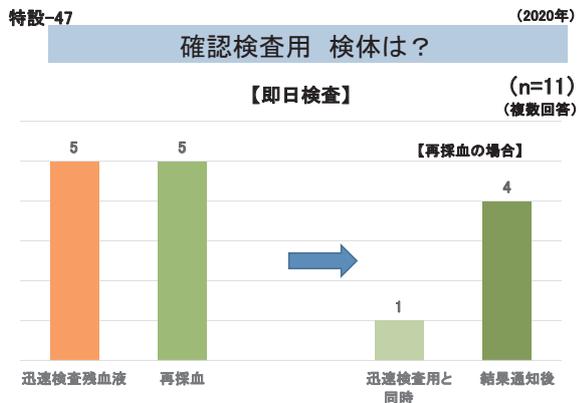
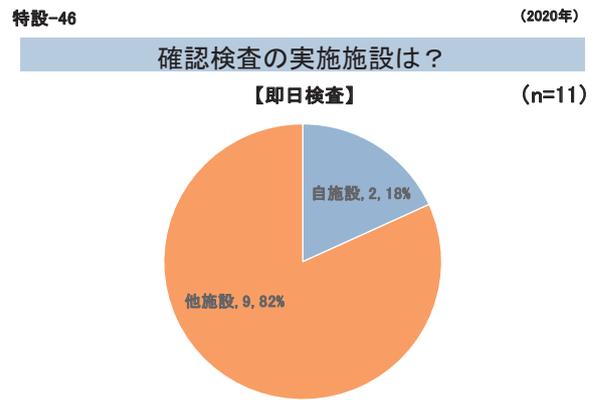
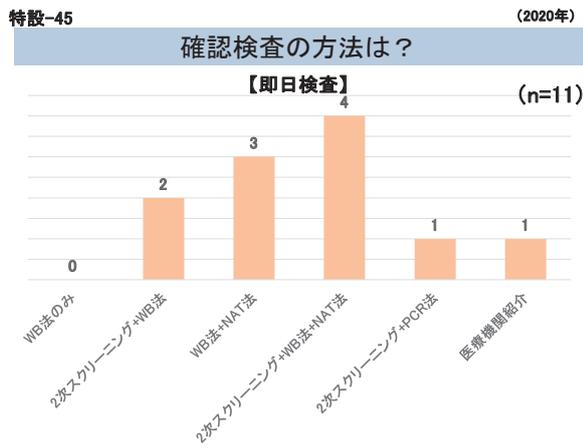
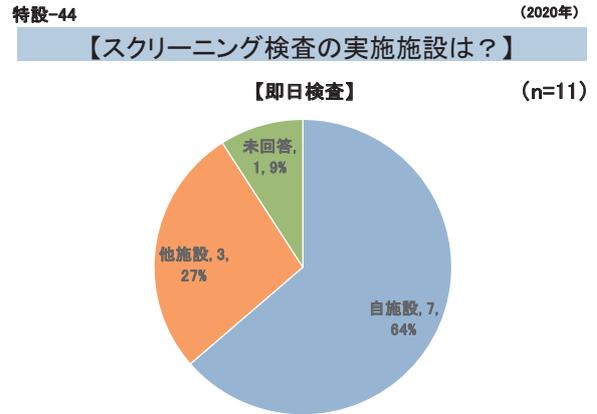
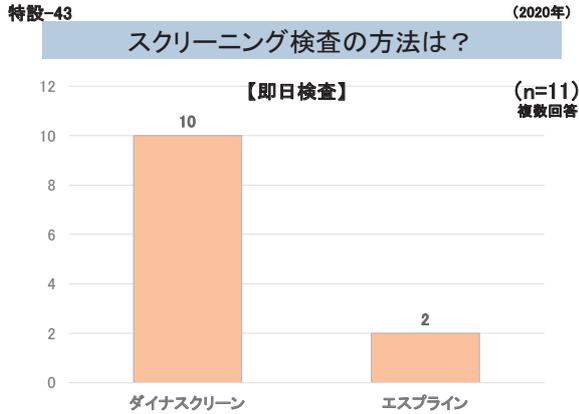
特設-41 (2020年) 検査は予約制ですか？



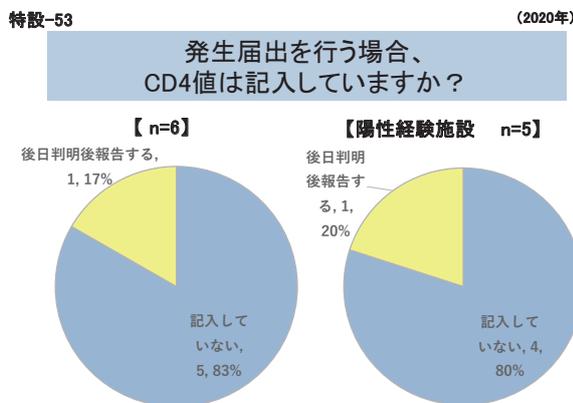
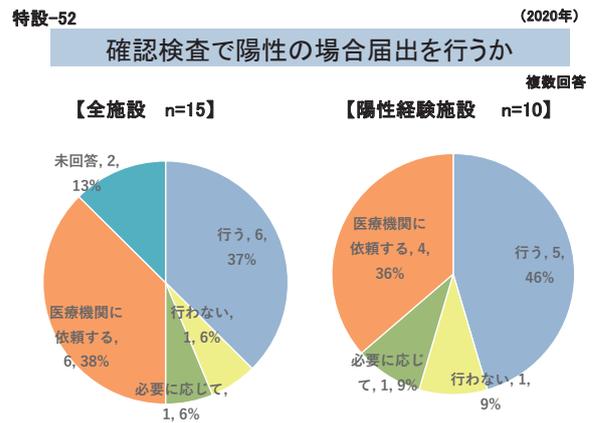
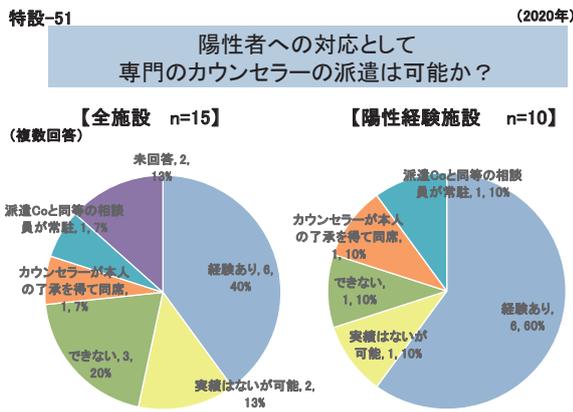
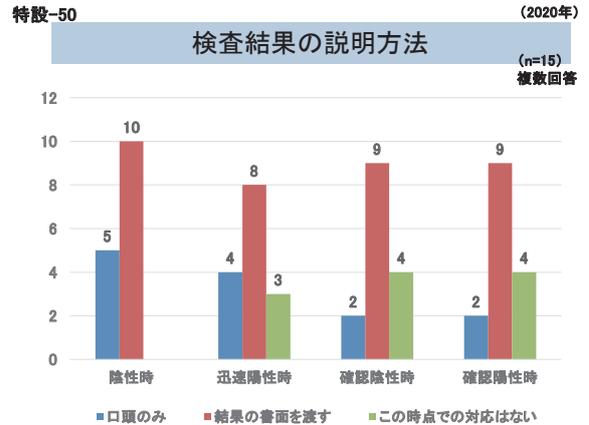
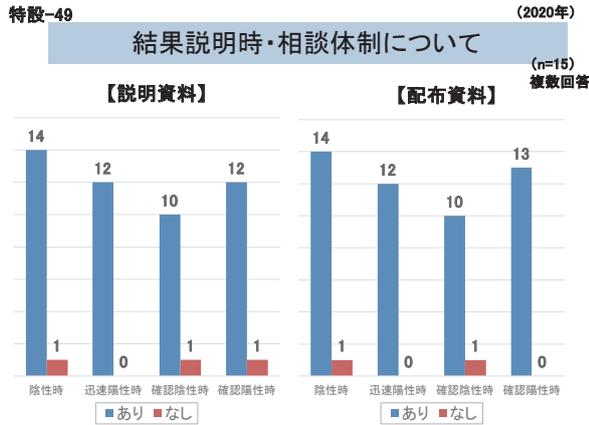
特設-42 (2020年) 結果返却のタイミングは？



R2年度特設 アンケート(HIV)



R2年度特設 アンケート(HIV)



特設-54 (2020年) 貴施設で発生届を提出していない場合、その理由をお書きください (n=2)

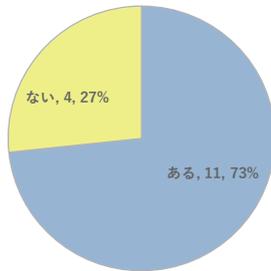
すでに感染が分かっている、他機関で届け出がされている場合は届けません。	1
医療機関で実施した検査をもとに医療機関で総合的に診療するため	1

R2年度特設 アンケート(HIV)

特設-55 (2020年)

やむを得ず検査・相談の受け入れを断ったことはありますか？

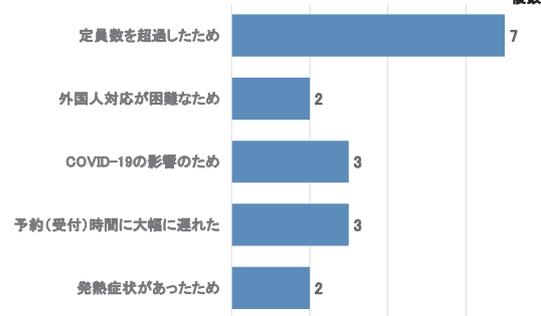
(n=15)



特設-56 (2020年)

受け入れを断った理由は何ですか？

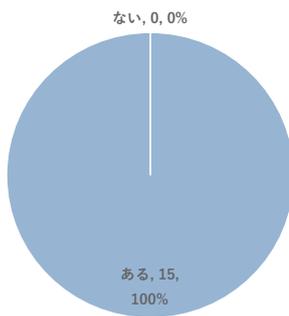
(n=11)
複数回答



特設-57 (2020年)

ウェブサイト「HIV検査・相談マップ」をご覧になったことはありますか？

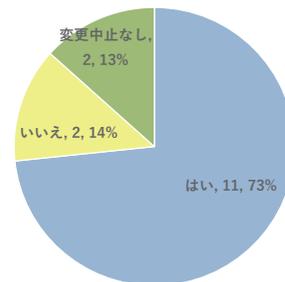
(n=15)



特設-58 (2020年)

COVID-19によりHIV検査日程が変更・中止になった際に「HIV検査・相談マップ」に修正依頼を送りましたか？

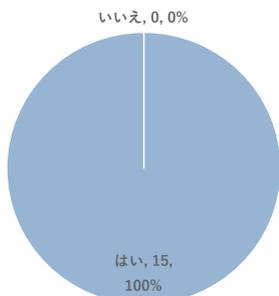
(n=15)



特設-59 (2020年)

「HIV検査・相談マップ」は検査相談事業に役立っていると思いますか？

(n=15)

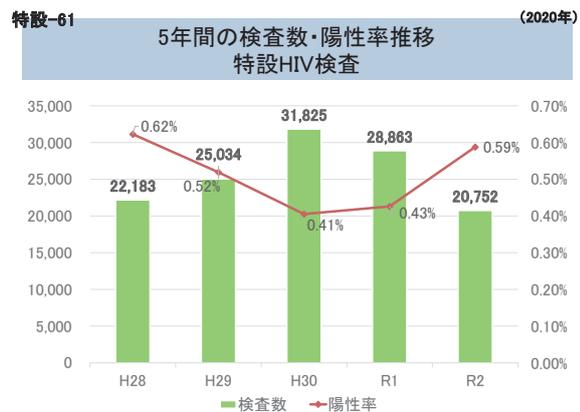


特設-60 (2020年)

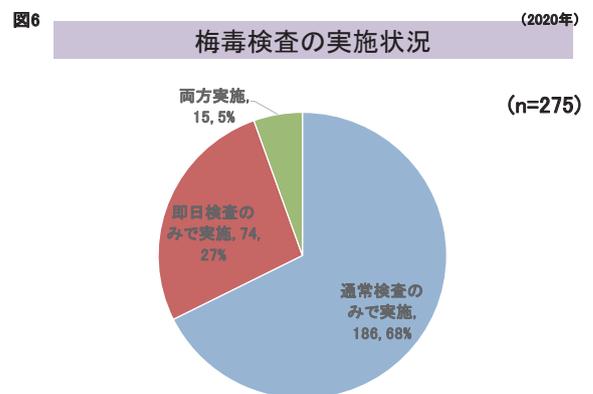
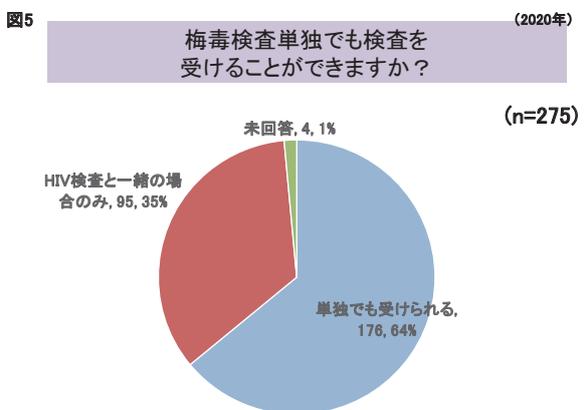
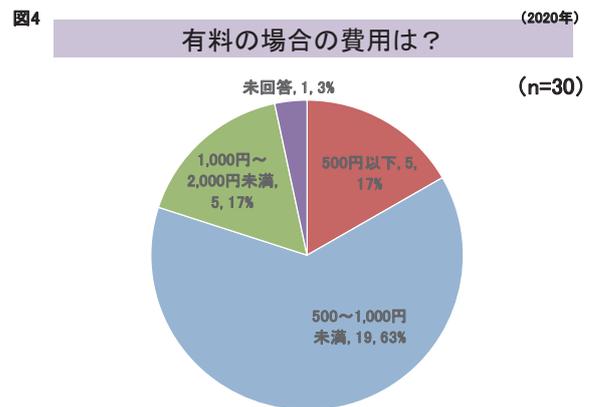
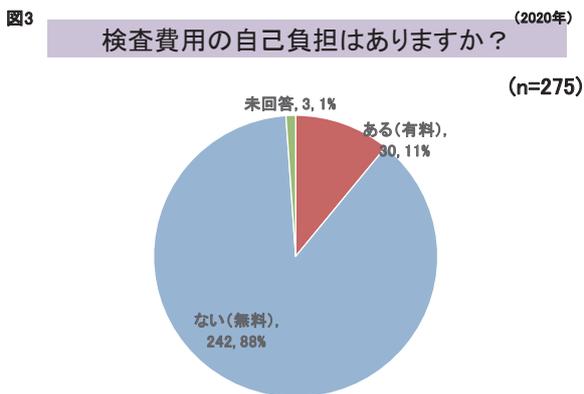
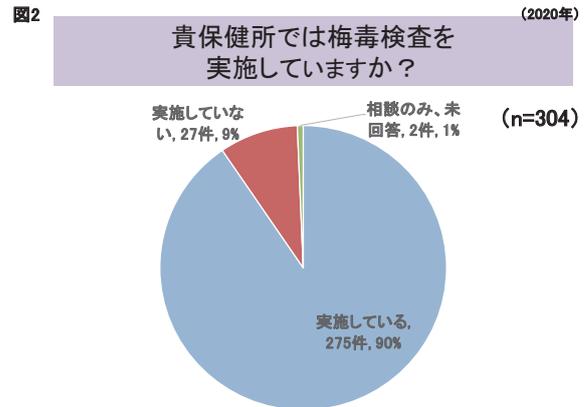
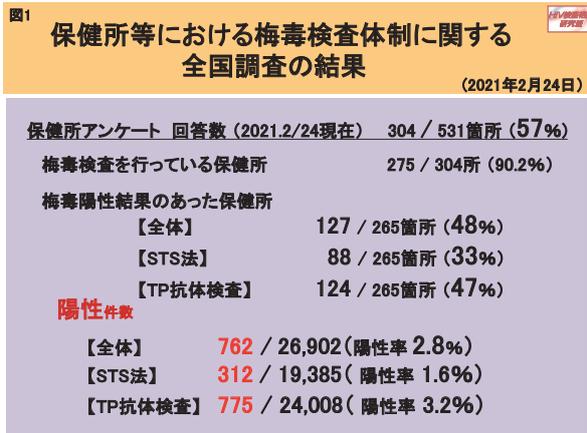
5年間の検査数・陽性数推移
特設HIV検査

	H28	H29	H30	R1	R2
送付数	21	22	24	18	19
回収数	17	21	21	15	15
回収率	81.0%	95.5%	87.5%	83.3%	78.9%
検査数	22,183	25,034	31,825	28,863	20,752
うち陽性数	138	130	129	123	122
陽性率	0.62%	0.52%	0.41%	0.43%	0.59%

R2年度特設 アンケート(HIV)



R2年度保健所アンケート(梅毒)



R2年度保健所アンケート(梅毒)

図7 (2020年) 梅毒検査の実施状況について【通常検査】

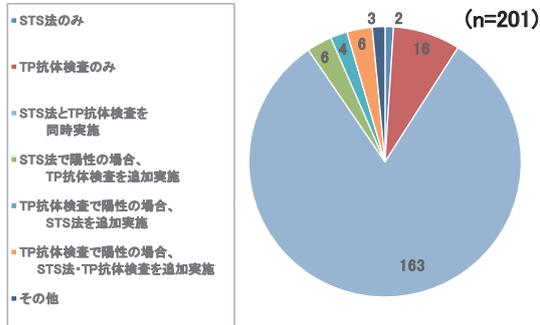


図8 (2020年) 梅毒検査の実施状況について 結果返却のタイミングは？【通常検査】

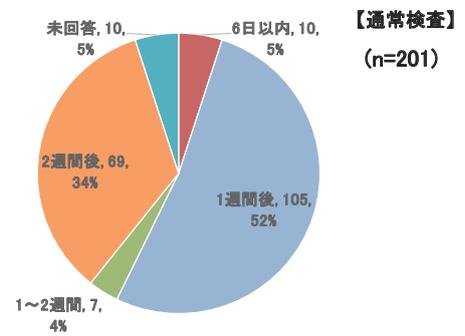


図9 (2020年) 梅毒検査の実施状況について 検査の実施施設は？【通常検査】

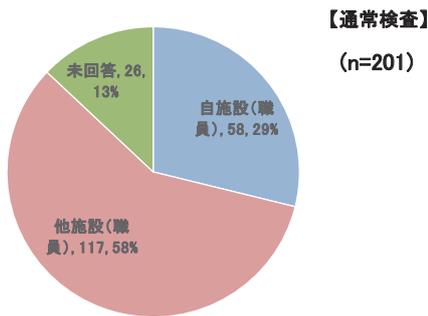


図10 (2020年) 梅毒検査の実施状況について【即日検査】

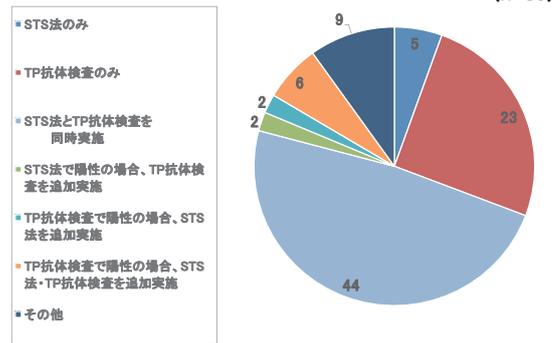


図11 (2020年) 梅毒検査の実施状況について 結果返却のタイミングは？【即日検査】

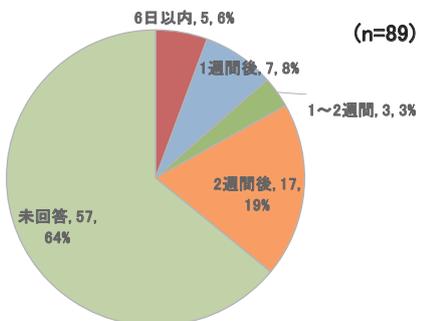
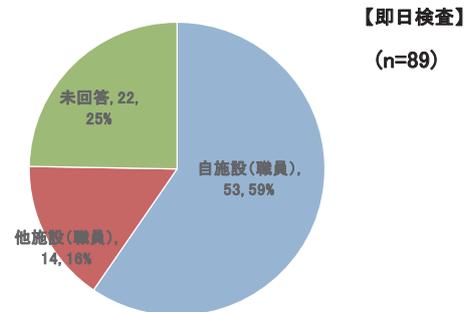


図12 (2020年) 梅毒検査の実施状況について 検査の実施施設は？【即日検査】



R2年度保健所アンケート(梅毒)

図13 (2020年)

1年間(2020年1~12月)の検査数・陽性数

検査数		陽性数		陽性率
梅毒検査数	26,902	梅毒陽性数	762	2.8%
うちSTS法検査数	19,385	うちSTS法陽性数	312	1.6%
うちTP抗体検査検査数	24,008	うちTP抗体検査陽性数	775	3.2%

図14 (2020年)

梅毒検査 検査数と陽性数

	R2	R1	H30	H29	前年比	
検査実施保健所数	275	455	414	393	60.4%	
梅毒検査数	梅毒検査数(全体)	26,902	79,147	64,965	59,104	34.0%
	うちSTS法検査数	19,385	60,890	48,077	47,968	31.8%
	うちTP抗体検査検査数	24,008	70,708	48,708	45,109	34.0%
梅毒陽性数	陽性数(全体)	762	1,637	1,435	1,151	46.5%
	うちSTS法陽性数	312	876	752	639	35.6%
	うちTP抗体検査陽性数	775	1,953	1,494	1,211	39.7%
梅毒陽性率	陽性率(全体)	2.8%	2.1%	2.2%	1.9%	136.9%
	うちSTS法陽性率	1.6%	1.4%	1.6%	1.3%	111.9%
	うちTP抗体検査陽性率	3.2%	2.8%	3.1%	2.7%	116.9%

図15 (2020年)

梅毒検査が陽性だった場合の対応は？

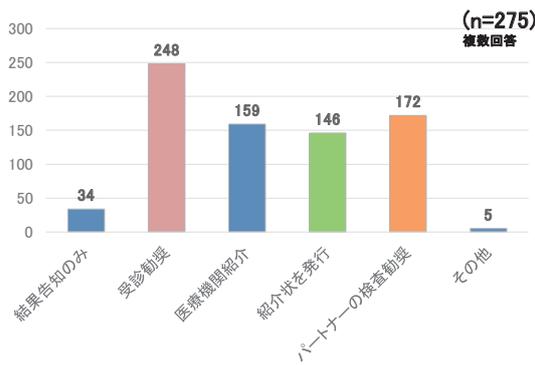


図16 (2020年)

梅毒検査陰性の証明書を発行していますか？

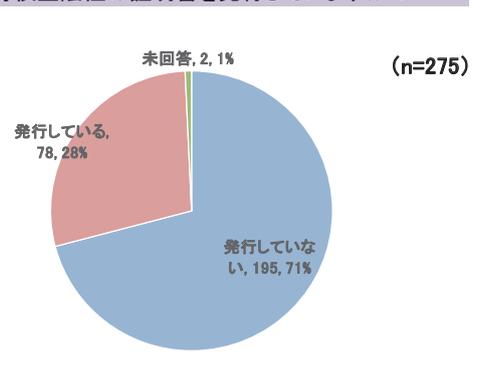


図17 (2020年)

証明書の発行は有料ですか？

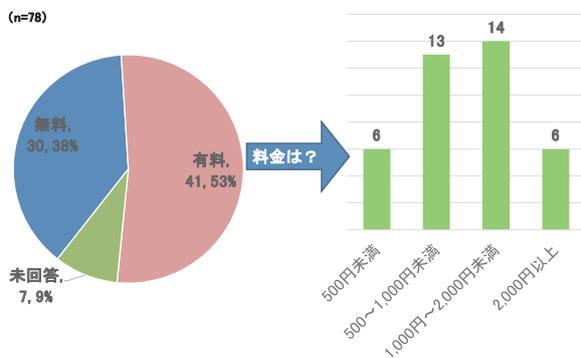
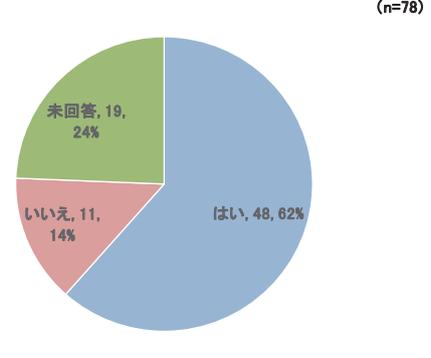


図18 (2020年)

証明書の発行は記名式ですか？



R2年度保健所アンケート(梅毒)

図19 (2020年)

陽性者が医療機関を受診したかどうか分かる仕組みがありますか？

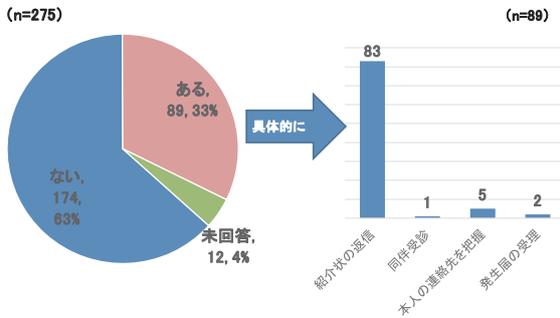


図20 (2020年)

梅毒検査 検査数と陽性率の推移

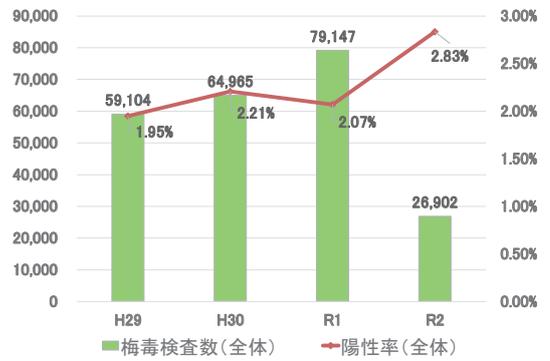


図21 (2020年)

梅毒検査 陽性数と陽性率の推移

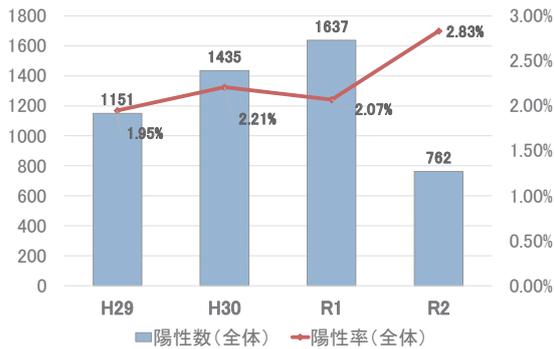
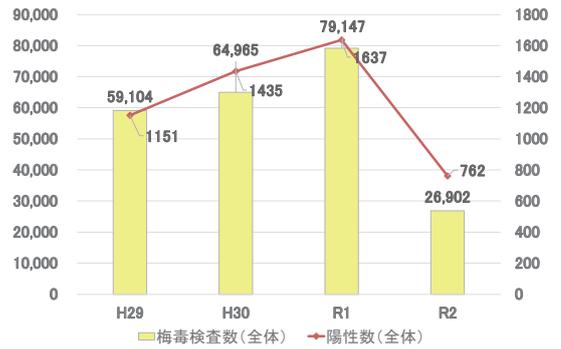
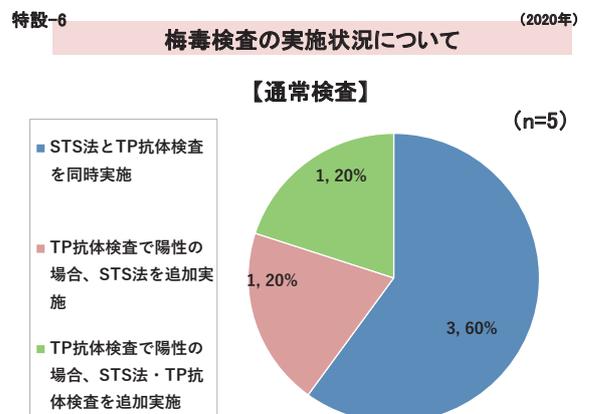
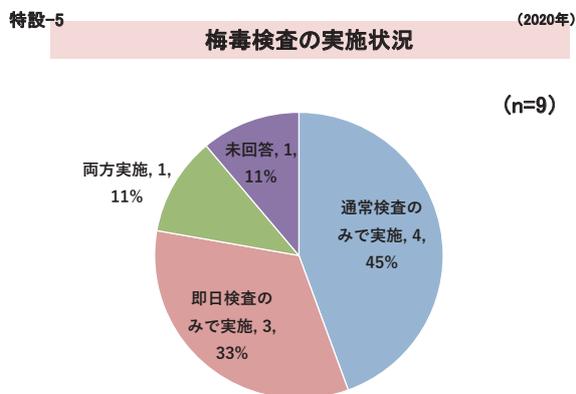
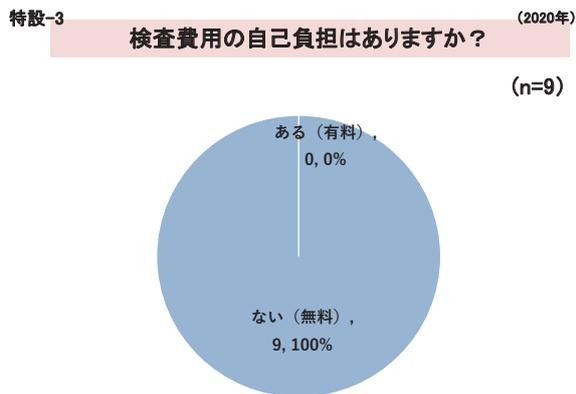
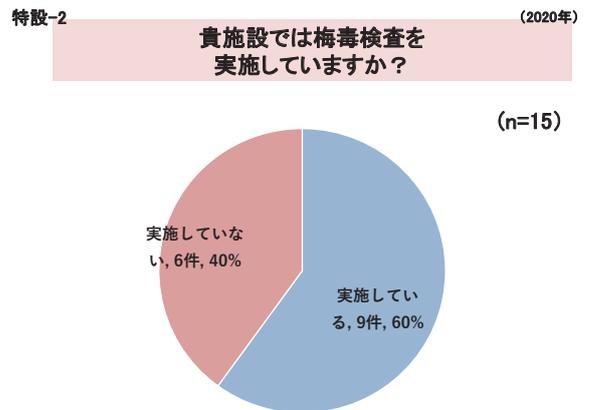
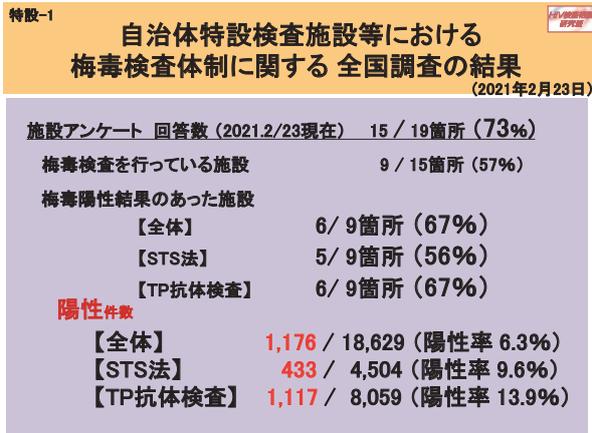


図22 (2020年)

梅毒検査 検査数と陽性数の推移



R2年度特設アンケート(梅毒)

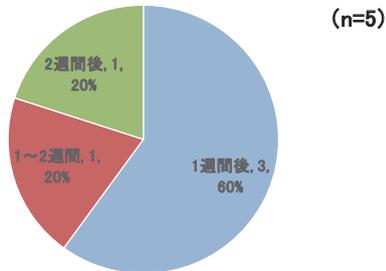


R2年度特設アンケート(梅毒)

特設-7 (2020年)

梅毒検査の実施状況について
結果返却のタイミングは？

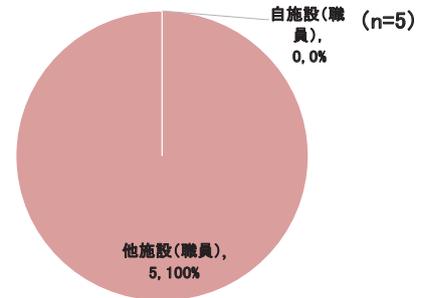
【通常検査】



特設-8 (2020年)

梅毒検査の実施状況について
検査の実施施設は？

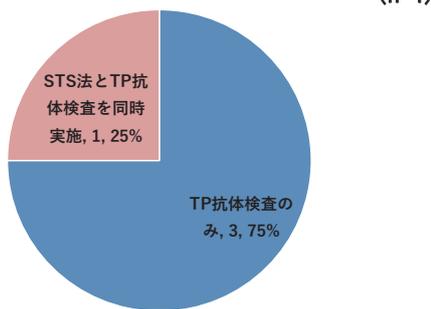
【通常検査】



特設-9 (2020年)

梅毒検査の実施状況について

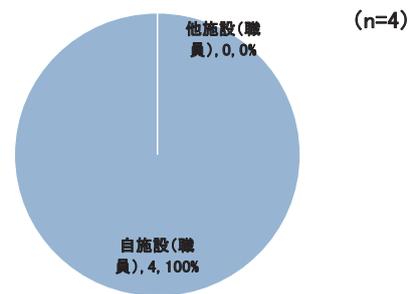
【即日検査】



特設-10 (2020年)

梅毒検査の実施状況について
検査の実施施設は？

【即日検査】



特設-11 (2020年)

1年間(2020年1~12月)の
検査数・陽性数

検査数		陽性数		陽性率
梅毒検査数	18,629	梅毒陽性数	1,176	6.3%
うちSTS法検査数	4,504	うちSTS法陽性数	433	9.6%
うちTP抗体検査検査数	8,059	うちTP抗体検査陽性数	1,117	13.9%

特設-12 (2020年)

梅毒検査 検査数と陽性数

	R2	R1	H30	H29	前年比	
検査実施保健所数	9	9	12	11	100.0%	
検査数	検査数(全体)	18,629	23,728	24,436	12,611	78.5%
	うちSTS法検査数	4,504	6,019	5,917	9,220	74.8%
	うちTP抗体検査検査数	8,059	23,169	19,484	5,548	34.8%
陽性数	陽性数(全体)	1,176	732	724	671	160.7%
	うち STS法陽性数	433	133	320	566	325.6%
	TP抗体検査陽性数	1,117	813	973	661	137.4%
陽性率	陽性率(全体)	6.3%	3.1%	3.0%	5.3%	204.6%
	うち STS法陽性率	9.6%	2.2%	5.4%	6.1%	435.1%
	TP抗体検査陽性率	13.9%	3.5%	5.0%	11.9%	395.0%

R2年度特設アンケート(梅毒)

